

第二十三回 帝國議會 貴族院議事速記録第十二號

明治四十年三月十四日(木曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第十二號 明治四十年三月十四日

午前十時開議

第一 明治四十年度歳入歳出總豫算追加案(第一號) 會 議(委員長報告)

第二 明治四十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號) 會 議(委員長報告)

第三 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號) 會 議(委員長報告)

第四 明治三十九年度歳入歳出總豫算追加案(第三號) 會 議(委員長報告)

第五 日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第七 農工銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第九 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十一 森林法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十三 種牡牛検査法案(議院送付) 第一讀會

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十五 市制改正法律案(議院送付) 第一讀會

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十七 町村制改正法律案(議院送付) 第一讀會

第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第十九 保稅倉庫法中改正法律案(議院送付) 第一讀會

第二十 東京市制案(衆議院提出) 第一讀會

第二十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十二 衆議院議員選舉法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十四 衆議院議員選舉法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十六 衆議院議員選舉法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十八 貴族院規則第二十八條中改正ノ動議(子爵會外發議) 會 議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

「小原書記官朗讀」

去ル十一日本院ニ於テ議決シタル政府提出海港檢疫法中改正法律案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

同日本院ニ於テ議決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

癩豫防ニ關スル法律案

韓國森林特別會計法案

同日本院ニ於テ議決シタル衆議院提出戶籍法中改正法律案ハ即日裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

同日本院ニ於テ採擇ヲ議決シタル左ノ各請願書ハ意見書ヲ付シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

樺太島開發ニ關スル請願

利根川治水速成ニ關スル請願

森林法中改正ノ請願

登錄稅法中改正ノ請願

利根川河身改修速成ノ請願

根室鐵道速成ノ請願

平戶區裁判所御厨出張所設立ノ請願

電線架設ノ請願

渡良瀬川河身改修ニ關スル請願

渡良瀬川沿岸特別地價修正漏再修正ノ請願

鑛毒被害地地價修正漏地價再修正ノ請願

鑛毒被害地地價修正ニ對シ再修正ノ請願

渡良瀬川沿岸地方特別地價再修正院議實行ノ請願

酒田新莊間鐵道速成ノ請願

越羽沿岸鐵道速成ノ請願

船形酒田間鐵道速成ノ請願

宮津福知山間鐵道急設ノ請願

同日議員子爵曾我祐準君外四名ヨリ九十二名ノ賛成ヲ以テ貴族院規則第二十八條中改正ノ動議ヲ提出セリ

同日政府ヨリ左ノ法律案ヲ受領セリ

農工銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

森林法改正法律案

一昨十二日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

樺太ニ於ケル租税ニ關スル法律案

明治三十九年度一般會計所屬ノ經費ヲ各帝國大學特別會計ニ繰越ス場合ニ於ケル剩餘金繰入ニ關スル法律案

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案

煙草專賣法中改正法律案

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

同日政府ヨリ藥品營業並藥品取扱規則中改正法律案ヲ受領セリ

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○伯爵柳原義光君 是ヨリ決算委員ノ總會ヲ開キタウゴザイマスガ、暫時同委員全體ガ退場ヲ致シタウゴザイマスガ、御許可ヲ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 柳原伯爵ノ要求ノ通り御異存ゴイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマスカラ、宜シウゴザイマス

○子爵谷干城君 私モ輸入砂糖ノ法律案ヲ議シタイト思ヒマスカラ御許可願ヒタイ

○議長(公爵德川家達君) 谷子爵ノ要求ニ付イテ御異存ハゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマスカラ宜シウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、諸君ニ御諮リ

ヲ致シマスガ、議事日程ノ第一ヨリ第四マデハ皆豫算委員長ノ報告デアリマスカラ、東ネテ宜カラウカト存ジマス、御異議ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第一、明治四十年度歳入歳出總豫算追加案第一號……

「左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ」

一明治四十年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

一明治四十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

一豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審查シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治四十年三月十一日

豫算委員長 伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿

一明治三十九年度歳入歳出總豫算追加案(第三號)

右衆議院ヨリ送付シタル案ヲ審查シ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治四十年三月十一日

豫算委員長 伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿

「伯爵正親町實正君演壇ニ登ル」

○伯爵正親町實正君 豫算委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報道申上ゲマス、此明治四十年度歳入歳出總豫算追加デゴザイマスガ、是ハ豫ネテ御承知ノ如ク殆

ド全部法律ニ牽聯シタ豫算デゴザイマシテ、曩ニ當院ヲ通過イタシマシタ關東都督府、樺太廳、帝國大學、其他學校及圖書館ノ特別會計ト云フモノノ豫算デゴザイマシテ、四十年度ノ總豫算ニ於キマシテ、ソレ等ノ特別會計ニ對シマスル補充金等ガ重モナルモノデゴザイマス、其他遞信省ノ所管ニ於キマシテ、韓國鐵道收益勘定缺損補填金デゴザイマス、ソレカラ外務省ニ於キマシテ清國公使館新築費、是ガ些カゴザイマス、ソレ等ガ重モナルモノデゴザイマス、又各特別會計ハ總テ唯今申シマシタモノノ特別會計デゴザイマス、此兩案トモニ審議ヲ盡シマシタガ、別段何等ノ異議ナク原案通り可決イタスコトニ決シマシテゴザイマス、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、是ハ各帝國大學其他各高等學校ニ於キマシテ外國教師ヲ雇入レ、又ハ雇繼ノ契約ヲ結ブ案デゴザイマシテ、是モ原案通り異議ナク決シマシタ、三十九年度歲入歳出總豫算追加第三號、是ハ僅ナ豫算デゴザイマスルガ、韓國ノ鐵道事業ニ於キマシテ木材ガ不足スルニ付イテ至急ニ農商務省ヨリ木材ヲ伐リ出シテ貰ヒタイト云フ請求ノ爲ニ、臨時ニ森林費ノ増加ヲ農商務省カラ要求ニナリマシタノト、ソレカラ牛疫ガ近來蔓延ノ兆候ガゴザイマスニ付キ、ソレノ豫防ノ爲ニ牛疫費ノ要求ガゴザイマス、ソレカラ遞信省ガ先達テ燒失ニ付キマシテ本建築ヲスルマデニ應急ノ建築トシテノ費用ヲ要求サレタノデゴザイマス、是等モ皆已ムヲ得ナイモノトシマシテ、委員會ハ全部原案通り可決イタシマシタ、ソレダケヲ

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、唯今豫算委員長ノ報告モ東ネテゴザイマシタガ、採決モ東ネテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト存ジマス、然ラバ議事日程ノ第四マデノ豫算ノ會議、問題ニ致シテゴザイマスノヲ東ネテ採決イタシマス、總テ豫算委員長ノ報告通りデ御異存アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第五ニ移リマス、日本勸業銀行法中改正法律案、政府提出、第一讀會、本日モ通牒文ノ朗讀ヲ省略イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、便宜ノ爲ニ議事日程ノ第五、第七、第九、一括シテ大藏大臣ヨリ説明サレマシテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

「左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ徴フ」

日本勸業銀行法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十年三月九日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 法學博士 阪谷 芳郎

日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第三十五條中「二十圓」ヲ「十圓」ニ改ム

第三十八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ六箇月毎ニ複利ノ計算ヲ爲シ一定ノ年數毎ニ之ヲ仕拂フコトヲ得

農工銀行法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十年三月十一日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 法學博士 阪谷 芳郎

農工銀行法中改正法律案

農工銀行法中左ノ通改正ス

第七條ノ二中「産業組合法」ニヨリ設立シタル無限責任ノ信用組合購買組合

及生産組合ヲ「産業組合」ニ改ム

北海道拓殖銀行法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十年三月十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 博士阪谷 芳郎

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第八條第三項中「産業組合法ニ依リ設立シタル無限責任ノ信用組合、販賣組合、購買組合及生産組合」ヲ「産業組合」ニ改ム

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣〔阪谷芳郎君〕 此勸業銀行法、農工銀行法、拓殖銀行法ノ改正ニ付キマシテ一應趣旨ヲ説明イタシテ置キタイト存ジマス、御承知ノ如クニ勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行、ソレカラ興業銀行、此四ツノ銀行ハ日清戰役後、經濟ノ發達ノ必要ニ鑑ミマシテ設立イタシマシタ銀行デゴザイマス、幸ニ段々其事業ガ發達イタシマシテ、今日此四ツノ銀行カラ貸出シテ居リマス金額ハ九千七百萬圓ノ多キニ達シテ居リマス、餘ホド日本ノ産業ノ發達ノ上ニハ好結果ヲ奏シクコトト考ヘマスノデス、デ此度提出イタシマシタ此勸業銀行ノ法案ハ從來勸業銀行法ニ據リマスルト云フト、二十圓ノ勸業債券ヲ發行スルコトニナツテ居リマシタノヲ、十圓ノ勸業債券ヲ發行スルコトガ出來ルヤウニ、即チ發行イタシマスル一枚ノ金高ノ制限ヲ十圓ニ下ゲタイト云フノガ趣意デゴザイマス、是ハ御承知ノ通りニ日露戰役中ニ於キマシテ貯蓄勸業債券法ト云フノガゴザイマシテ、其貯蓄勸業債券法デハ五圓ノ債券ヲ發行スルコトガ出來マシタノデゴザイマス、然ルニ此貯蓄勸業債券法ハ是ハ法律ニ期限ガゴザイマシテ、平和克復後一箇年ヲ以テ限トスルト云フコトニナツテ居リマスルノデ、即チ昨年限り此勸業貯蓄債券ノ發行ハ止メマスコトニ致シマシタ、此勸業貯蓄債券法ノ結果ニ依リマスルト、貯蓄債券ノ發行高ガ二千萬圓ニ達シマシタ、其二千萬圓ハ一半ヲ以チマシテ公債等ノ募集ニ應ジマシタ、又其一

半ヲ以チマシテ地方ノ農工銀行其他ニ金ヲ融通イタシマシテ、戰役中、地方産業ノ發達ヲ謀リマシタ次第デ、十分ナル效力ガアツタモノト政府ハ信ジテ居リマスノデ、ツコデ此貯蓄勸業債券ハ即チ五圓デ賣出シマスガ故ニ、勸業銀行ノ債券ヲ二十圓デ賣出シマスルト云フコトハ、是ハ同時ニハ行ハレ難イコトデゴザイマスカラ、戰時中、勸業銀行ガ債券ヲ賣出シマス場合ニハ、始終、大藏省ノ預金部デ勸業銀行ノ債券ヲ引受ケマシテ、勸業上ノ資金ノ缺乏ヲ來タサヌヤウニ務メテ參リマシタノデアリマスガ、今ヤ貯蓄債券ノ發行ヲ停止イタシマシタニ付イテ、直ニ此二十圓ニ移ルト云フコトガ困難デゴザイマス、既ニ今マデ五圓債券ノ發行ノ習慣ガ付イテ居リマス所ニ、俄ニ二十圓ノ債券ヲ出スト云フコトハ困難ノ事情ガアル、サラバト云ツテ段々民間ノ事業モ發達シテ參リマシテ、是カラシテ諸般ノ經畫セラレマシタ會社、又政府ノ事業ノ金ガ散ツテ、労働者ノ手ニ移ル際デアリマスカラ、斯ル際ニ於テ下層ニ分散イタシマスル所ノ資金ヲ吸收イタシマスルト云フコトハ最モ必要ヲ感ズル次第デゴザイマス、ソレ故ニ此勸業債券ト云フモノヲ十圓ニシテ、成ルベク下層ニ分散スル所ノ資金ヲ吸收セシメタイ、斯ウ考ヘマシタガ爲ニ此改正法ヲ出シマシタノデゴザイマス、尤モ貴族院ニ於キマシテハ貯蓄勸業債券發行ノ際ニ、餘リ額面ノ下ガルコトハ如何デアラウカト云フ御注意ガゴザイマシテ、其當時餘ホド御議論モゴザイマシタ、併ナガラ此經驗ニ徴シマスルニ戰役後ヨリ産業ノ發展ノ必要ヲ、益感ジマスル際デゴザイマスルデ、十圓ト致シマスルコトハ其適度ヲ得タモノト考ヘマス、是ニ依リマシテ一箇年五六百萬圓以上モ資金ノ吸收ガ出來マスレバ、大變ニ地方ノ産業ノ上ニハ便宜ヲ感ジマスル次第デゴザイマス、ソレカラ此農工銀行ト拓殖銀行ト改正ハ是ハドチラモ同ジコトデゴザイマシテ、二ツノ法律ニナツテ居リマスルガ、目的ハ同ジコトデ、即チ産業組合ニ貸付ヲ便利ニスルト云フノデ、今日産業組合ハ貸付ケテ居リマスルノハ無限責任ノ場合ノ外ハ便宜ガ與ヘテゴザイマセヌ、ソレヲ此度ノ改正ニ依リマシテ有限責任若クハ保證責任ノ産業組合ニモ貸付ガ出來ルト云フ途ヲ開カウト云フノデ、現行法ニ於テ何故ニ無限責任ノ場合ノ外、便宜ヲ與ヘヌカト云フト、專ラ拓殖銀行ノ方ノ爲ヲ計リマシテ、産業組合ト云フモノノ法律ガ布カレテ、未ダ産業組合ノ發達モ幼稚デアル、成ルベク農工銀行、拓殖銀行アタリデ産業組合ニ貸シタ金ノ爲ニ資本ガ固定スルトカ、或ハリガ出來ルト云フコトヲ防グ爲ニ、無限責任ノ組合ニ限ツテハ貸付ガ滯

出來ルト云フ便宜ヲ與ヘマシタ、然ルニ前申シマスル通り農工銀行ト云フモノハ段々事業ガ發展シテ參リマシテ、又產業組合ノ方モ段々其制度ガ發達シテ參リマシテ、今ヤ戰後ノ場合益々產業組合ノ發展ニ依ッテ、地方ノ小サイ所ノ農工業ノ發達ヲ計リタイ、小サイ農工業ノ發達ガ出來レバ即チ積ンデ大ナル發達ガ出來ル譯デアル、固ヨリ農工銀行ノ基礎ガ定マツタ以上ハ、十分ノ責任ヲ取ルナラバ連帶責任若クハ保證責任ト雖モ貸付ヲシテ危險ナルコトハアルマイ、又一方產業組合ノ制度ハドウカト云フト、產業組合ノ制度ガ幼稚ナル爲ニ、地方ノ方デ無限責任ノ組合ニ加入スルコトヲ地方ノ重モナル人ガ好マヌヤウナ傾ガアル、然ラバ成ルベク有限責任若クハ保證責任ノ組合ノ發達ヲ獎勵シテ行クト云フコトガ今日ノ必要デアラウ、サウ致シマシテ即チ勸業銀行ガ吸收イタシマシタ所ノ資金ガ農工銀行ニ分配セラレ、サウシテ農工銀行カラ產業組合ニ分配セラレマシテ、農工業ノ極小サイ事業ニ資金ガ供給セラレル、サウシテ小サイ事業ノ發展ガ積リ積ッテ大ナル發展トナル、斯ウ云フ趣向ニ相成リマスノデ、ソレ故ニ此法律ノ改正ハ趣意ハ極メテ簡單、勸業銀行法ノハ唯二十圓トアルノヲ十圓ト改メ、サウシテ利子ノ仕拂方法ヲ多少便利ニスルト云フダケノコトデ、ソレカラ農工銀行、拓殖銀行ノ方ハ產業組合ノ發達ニ便宜ヲ與ヘル、是ダケノ簡單ナル法律デゴザイマスルガ、其結果ト致シマシテハ農工業ノ上ニ重要ナル關係ヲ生ズルコト考ヘマス、日露戰役ノ結果ト致シマシテ、將來ニ於キマシテ尙ホ政府ガ經濟界ニ對シテ金融機關ノ上ニ於テ經濟畫スベキコトハ有リマセウト考ヘマスルデゴザイマスガ、即チ此一方、經濟界ノ非常ナル事業ノ發展ノ結果ト致シマシテ、多少ソレニ對シテ將來ニ於テハ便宜ヲ計ルコトモ致究イタサナケレバナラヌト思ヒマス、併ナガラ前申シマスル通りニ日清戰役ノ場合ニ經濟イタシマシタ所ノ金融機關ト云フモノガ、今日ハ丁度其基礎ガ段々固マツテ來テ十分ナル働キヲスルヤウニナツタモノデゴザイマスカラシテ、政府ニ於キマシテ別段タイシタ銀行法案ヲ出ストカ、或ハ大ナル改正ヲ要スルトモ、マダ考ヘテ居リマセヌ、何レ今後一箇年ノ狀況ニ鑑ミマシテハ、或ハ多少ノ必要ヲ生ズル場合ガアルカト思ヒマス、此議會ニ於キマシテハ此外ニ別ニ重要ナ銀行法ノ改正案ハ提出イタサヌ考デゴザイマス、デ右申シマスル通りノ次第デゴザイマシテ、法案其モノト致シマシテハ極メテ簡單ナモノデゴザイマス、御審議ノ上、協賛ヲ與ヘラレムコトヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質問モ無イヤウデアリマスルカラ、次ノ議事日程ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉……特別委員ノ選定ハ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマスカラ、議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○伯爵廣澤金次郎君 今、大藏大臣ノ御説明モ三案連ネテ御説明ニナツタヤウナ次第デアリマスカラ、如何デゴザイマセウ、農工銀行法ノ改正モ、ソレカラ今、日程ニハマダ來マセヌガ、第九ノ北海道拓殖銀行法ノ改正モ、此案トモ同一委員ニ付託セラレテハ如何デスカ

○伯爵正親町實正君 賛成

〔其他「賛成」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ノ議事日程ノ第五、第七、第九、三案トモ同一委員ニ付託シヤウト云フ動議デアリマス、其動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十一、森林法改正法律案、政府提出、第一讀會

森林法改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十年三月十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
農商務大臣 松岡 康毅

森林法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ森林ト稱スルハ林叢地及現ニ造林ノ用ニ供スル土地ヲ謂フ

第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス

前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス

第三條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分チテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス

前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス

第四條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有權若ハ占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條 民法第二百五十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適用セス

第八條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ二十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

第二章 營林ノ監督

第十條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ森林又ハ森林

トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公有林又ハ社寺有林ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十六條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ怠リタルトキハ行政官廳ニ於テ自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十三條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限り三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ地方長官ニ於テ森林以外ニ供用シ難シト認定シタル土地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第十四條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ外地方長官ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ森林ノ使用收益ニ關スル弊害ヲ矯正スル爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

第三章 保安林

一 土砂ノ壞崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ

二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ

三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ

四 類雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ

五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ

六 魚附ノ爲必要ナルトキ

七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ

八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ

九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

第十六條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得

第十七條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス

第十八條 保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認ムルトキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ

地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付スヘシ

第二十條 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 第十九條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルキトハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十四條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入

解除ニ異議アルトキハ第十九條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

第二十三條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

第二十四條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ

第二十五條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタルトスルトキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得

前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ爲必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十七條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第二十八條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十九條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限り其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス

前二項ノ損害ハ政府之ヲ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 前條第三項ニ依ル政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償

金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前條第三項但書ニ依ル負擔ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三十一條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十九條第一項ニ依リ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十二條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第三十三條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十四條 第二十七條ノ規定ニ違反シ、第二十八條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 第十二條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第三十七條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ森林以外ノ土地ニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第三十八條 第十九條第二項、第二十九條乃至第三十一條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス

第四章 土地ノ使用及收用

第三十九條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十一條第二項ニ依ル通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第四十條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第四十一條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第四十二條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十六條第一項ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メサルトキ亦同シ

第四十三條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヰタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十六條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十七條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十八條 第四十一條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十九條 第四十一條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ、裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖土地ノ使用者又ハ收

用者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ御料局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十二條 前數條ニ依ル補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケサル範圍ニ制限セラルルモノトス

第五十四條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ノ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第五十五條 第三十一條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第五十六條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ第四十一條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條 土地收用法第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

第五十八條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第五十九條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府力之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スヘシ

前項工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第四十一條第二項第三項、第四十二條、第四十七條乃至第五十二條、第五十三條第二項、第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 流木竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十一條 前數條ノ外流木竹ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ御料局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

第五章 森林組合

第六十三條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ施業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ

三 森林產物運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ

第六十四條 森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社團法人トス

第六十五條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六十六條 森林組合ノ組合員ハ地區内ノ森林ヲ所有スル者ニ限ル

第六十七條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト

二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ

三分ノ二以上ナルコト

第六十八條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 目的及事業

二 地區

三 名稱

四 事務所

五 出資又ハ費用分擔ノ方法

六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第七十條 森林組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十一條 組合員ハ組合ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第七十二條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス

監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲナスコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 組合ノ解散

第七十四條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲナスコトヲ得

一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出シメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト

二 前號ニ依リ届出タル記號印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト

三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト

四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト

五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト

第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪搜查ニ付キ職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關スル營業者ノ手帳、帳簿及器具ニ付検査ヲ行フコトヲ得

第七十八條 森林又ハ之ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ

第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八十條 森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得蟲類以外ノ動物又ハ微菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ

前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス

第八十二條 害蟲驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依ル驅除豫防ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ重禁錮又ハ贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隱蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ

二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四 贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ橈ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ

五 保安林ニ於テ犯シタルトキ

六 森林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ

七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ

八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隱匿、消費、滅却又ハ放棄シタルトキ

十 夜間犯シタルトキ

第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林竊盜ノ贓物ト看做ス

第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林竊盜ノ贓物ノ回復ニ之ヲ適用セシ但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贓額ノ二倍カ二圓ニ滿タサルトキト雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ノ主產物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第四百二十條ノ適用ヲ妨ケス

第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ重禁錮及二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 第十四條ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第二十一條ニ違反シ又ハ第二十六條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第二十七條ニ違反シ又ハ第三十三條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第二十八條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ハ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得

第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二百二條 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ

第二百三條 第七十六條第一號第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百四條 第三十七條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

第八章 附則

第二百五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百六條 北海道、沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テハ本法中保安林ニ關スル規定ニ限リ之ヲ施行ス

前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二百七條 本法施行前森林タリシモノニシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第二百八條 舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニシテ本法施行ノ際現ニ保安林タルモノハ之ヲ保安林トス

第二百九條 公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケ又ハ地方長官ニ届出テタル施業案又ハ施業要領ハ第十條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二百十條 舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、議決、申請、請求、手續其ノ他ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二百十一條 舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間カ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス

第一百十二條 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔國務大臣松岡康毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松岡康毅君) 唯今議題ニ上ボリマシタ森林法改正法案ハ御存ジノ通り現行森林法ヲ改正若クハ増補イタシマスル次第デゴザイマスルガ、唯今行ハレテ居リマスル所ノ森林法ハ約十年前以前ノ制定ニ係リマシテ、其主要ト致シマスル所ガ、第一、保安林ノ制度ト申スノガ一番ノ主眼ニナツテ居リマス、從ッテ警察並ニ森林ニ對スル犯罪ノ制度、斯様ノモノガ大部分ヲ占メテ居リマスノデアリマス、其中ニ就イテ公有林、若クハ私有林ノ保護ヲ損スルトカ、若クハ荒廢ノ虞アルト申スモノニ對シマスル規定モゴザイマスルケレドモ、是トテモ何レモ申サバ事後ノ監督、即チ消極的ノ保護ト申シマセウカ、何レニ致シマシテモ増進助長セシムルガ如キ意味ヲ具ヘテ居リマセヌノゴザイマス、一體我ガ日本國ニ於キマシテ國有、公有、若クハ私有、是等ノ山林ノ合計ヲ見マスルト、非常ナル廣大ナル面積ヲ有ツテ居リマスガ、マダ完全ナル實測モ届キマセズ、委シイ所ハ申上ゲ兼ネマスルケレドモ大略一千九百萬町歩グラ非ノ大數ニ上ボリマスノデゴザイマス、而シテ其收利ヲ致シマスル所ノ額モ誠ニ不確定ノ統計デゴザイマスケレドモ漸ク七千萬若クハ八千萬ノ間クラ非ニ止マツテ居ルノデアラウト申ス位ノ統計デゴザイマス、是ハ甚ダ不確定ノモノデゴザイマスルガ、先ヅ用材、並ニ薪炭用ト申ス大別シタ所ヲ總括イタシマスルト約七八千萬ノ間ヲ過ギナイノデアリマス、斯ホドノ廣大ナル面積ヲ有シテ居ル我ガ國ノ山林原野、而シテ其收ムル所ノ利益ハ僅々七千萬、八千萬圓ニ過ギナイコトデゴザイマス、今日ヨリ將來ニ向ツテ見マスルト、唯今從來ノ制度習慣ヲ改メマシテ此大ナル山林原野ヲ十分利用増益スル所ノ方法ヲ講ゼヌケレバナリマスマイシ、是ハ我ガ日本國ノ國家ノ經濟上ニ於キマシテモ甚ダ重大ナル關係ヲ有シテ居リマスコトデゴザイマスルノデ、ソレユエ此度ノ改正案ハ約十年間ノ實驗ニ徴シマシテ、傍ラ外國ノ制度ヲ參酌イタシマシテ、前申上ゲマスル消極的ノ制度ニ局定セラレテ居ル所ノモノヲ、一躍シテ積極ノ方針ヲ執ルト云フコトニ定メマシタ次第デゴザイマス、其増補イタシマスル所ノ大要、極大イナルモノノミヲ一二舉ゲテ申シマスルト、公有林、若クハ社寺林、是等ニ付キマシテハ誠ニ從來ノ、現行ノ法律ハ簡單極マツタル條文ガ一二箇條アルニ過ギナイノデゴザイマス、ソレハ即チ森林ノ保護ヲ

毀損スルカ、若クハ荒廢ノ虞アルト云フヤウナトキニハ命令ヲ發スルコトヲ得ルト云フニ過ギザルコトデアリマス、此公有林ト社寺林ヲ合計イタシマスルト、約二百四十萬町歩ハ確ニアルノデゴザイマス、而シテ荒廢イタシマシテ最モ收益ノ少イノガ此公有林デゴザイマス、兎角公共團體ノ有ニ屬シテ居ル所ノ此公有林原野ト申スモノハ國有林、若クハ個人ノ私有林ニ比較イタシマスルト、甚ダ收益ガ少イノデアリマス、是ハ色々ノ原因モゴザイマセウ、慣習モゴザイマスルガ、各國ノ法令ニ參酌イタシマスルト、何レノ國モ此公有林ニ付イテハ非常ニ綿密ナル嚴正ナル制度規定ヲ設ケテ居リマスノデゴザイマシテ、二百五十萬町歩ト申ス面積ハ殆ド全國ノ米作スル田ノ面積ニ近イ位ノ大イナルモノデゴザイマス、是等ニ付テハ單ニ事後ノ監督ノミナラズ、事前ニ於テモソレ／＼保護監督ノ途ヲ付ケマシテ、豫メ施業案ヲ作ツテ地方官ノ認可ヲ受ケサセル、而シテ其施業案ニ依ッテ順次營林ヲサセテ行カウト申スヤウナコトニ致シマス、是ハ先ヅ公有林社寺林等ニ付イテ新ニ制度ヲ加ヘマシタ所ノ大要デゴザイマス、次ニハ此土地若クハ水面ノ使用方法ヲ定メマシタ、何レモ山林デゴザイマスルデ、木材ノ今日現存シテ居ルヤウナ森林ト申スノハ兎角道路交通ノ不便ナル所ニアルノガ多イノデアリマス、謂ハバ道路交通ノ便ガ惡ルイ爲ニ、今日モ多クノ森林ガ存在シテ居ルト申シテモ宜イ位ナコトガアリマスルノデ、一個ノ人、或ハ國有林ニ於キマシテモ公有林ニ於キマシテモ、森林ガアリナガラモ之ヲ出サウトスルニハ他人ノ土地ノ上ヲ多ク通過シナケレバ、山間ノ地デアリマスカラ大道ノアラウ筈モ無シ、又場所ニ依ルト公有水面ノ若クハ私有水面ノ上ヲモ通過シナケレバ、需要地ヘ木材ヲ運搬スルコトノ出來ナイト云フ有様デアリマス、左様ナル不經濟ノ次第二ニナツテ居リマスルカラ、他人ノ土地デモ又公有若クハ私有ノ水面ヲ木材ノ運搬道路ノ爲ニ使用スルコトヲ得ラルル規定ヲ設ケマシタ、是ガ新規ニ加ヘマシタ所ノ大ナル分ノ先ヅデゴザイマス、其次ニ今一ツ加ヘマシタ所ノモノハ、森林ノ組合ヲ設ケサセルト云フコトヲ致シマシタ、森林ハ他ノ農業若クハ、商工業ニ於ケルガ如ク、矢張り共同一致ヲ以テ經營シナケレバ十分ノ目的ヲ達スルコトノ出來ナイト申スコトハ事實デゴザイマシテ、例ヘバ深山ニ點々各個人ガ森林ヲ所有イタシテ居リマシテモ、唯今前ニ述ベマシタ運搬道路ヲ開クト致シマシテモ、一個人デハ之ヲ開ク爲ノ費用努力ニ堪ヘナイ所モアリマス、サウ云フ時分ニハ共同組合ガ出來テ居リマシテ、林道ヲ造

ルトカ若クハ橋梁ヲ架ケルトカ、又ハ荒廢スル所ヲ防グガ爲ニ一様ノ施業案デモ定メテ、共同デ其事業ヲ營マウト申スコト、或ハ火災ノ消防方法、若クハ害蟲驅除ノ仕事ト申スガ如キ物柄ハ、ドウシテモ一個一個ニヤリマシテハ十分ナコトガ出來メセカラ、是等ニ付イテハ矢張り農業上ナドニ於テ、サセルガ如キ共同組合ヲ設ケルト云フコトノ必要ヲ見マシテ、大分綿密ニ規定ヲ加ヘマシタコトデゴザイマス、デ以上ノ如キモノヲ先ヅ改正ノ主タルモノト致シマシテ、其他ニモ細カイ所ハ段々ゴザイマスル次第デゴザイマスガ、右ノ如キ目的デ此大ナル面積ヲ占メテ居ル山林原野ニ對シテ進ンデ參リマスレバ、前途ニ於テハ餘ホド國家ノ經濟ニ甚ダ増益スル所ガアルデアラウト考ヘマスル次第デゴザイマス、詰リ現行法ノ所デハ大凡、事ガ皆消極的ニ止マツテ居リマスノヲ、後來ニ向ッテハ一層積極的ノ方ニ改メマシテ、此森林經營ヲ進メテ參ラウト云フ次第デゴザイマス、何レ條章ノ細カイ事ニ互リマシテハ委員會ノ節ニ更ニ詳細ノ説明、若クハ御答ヲ致スコトニ致シマスデゴザイマス、殊ニ一言諸君ニ願ヒマスルハ、御覽ノ通り本案ハ百十二條バカリノモノニナツテ居リマシテ、隨分本年議會ヘ提出イタシマシタル法律ノ中デハ箇條ノ多イ分ニ屬シテ居リマスルノデゴザイマス、提出ヲ致シマスルニ付キマシテハ今少シ日子ニ餘裕アル中ニ提出ヲ致シタイ考デ、議會開會以前ヨリモ頻ニ係リノ者ニ於テモ取急ギマシタガ、何分事柄ガ内務、大藏、司法等ノ各省ニ關係イタシマシテ、ソレ／＼所管ノ異ル所ニ熟議ヲ遂ゲテ調製イタシマスル爲ニ、圖ラズ遲延ニナリマシテ、今日會期ノ末ニ屬シテ斯様ナ大キナ法律ヲ出シタハ怠デアルト云フヤウナ諸君ノ御感ジヲ持タレマシテハ甚ダ恐縮デゴザイマスガ、勉メタノデゴザイマスルガ已ムヲ得ズ遲クナリマシタ次第デゴザイマスルガ、併シ此物柄ハ前申上ゲマスルヤウニ國家ノ前途ニ對シテ官民トモニ經濟上非常ナル關係ヲ有シマスル次第デゴザイマスカラ、何卒今申述ベマシタ所ヲ御了解クダサイマシテ、速ニ御協賛アラムコトヲ希望イタシマスル

○子爵高野宗順君 私ハ松岡サンニチヨット伺ヒタイ、森林法ノ第一條ニ、此現行法デゴザイマスルト、チヨット一目シマシテモ直グニ森林ト云フモノハ、コレ／＼コレ／＼ヲ指スト云フコトガ委シウ書イテゴザイマス、御料林或ハ國有林、部分林、公有林、何ミト直グ分リマスガ、今度ノ改正案デ見マスルト「森林ト稱スルハ林叢」林叢ト云フコトガ森林ト云フコトニ當ル「及」云

々ト申シマスルノハ、是ハ既ニ林地ニスルト云フ方ニ取掛テ居ル此ニツラ

概括シテ森林ト稱スルト云フコトガ明示シテゴザイマスガ、成ルホド第三條ニ委シウ今私ガ申上ゲタ御料林云々ト云フコトガ書イテゴザイマスガ、既ニ所有者ニ依ッテ斯ウ云フ名ヲ付ケル、斯ウ云フコトニナッテ居ル、其御分ケニ

ナツタノハ、ドウ云フナシデゴザイマスガ、何カ理由ガアルコトデゴザイマセウカ、我々ガチヨット見マスルト、森林ト云フモノハ、何ミデアルト云フコトガ現行法デハ一目分リ宜ウゴザイマス、今度ノモ分ラナイコトハ決シテゴザ

イマセセガ「林叢地及」云々ト斯ウゴザイマスノデ、斯ウ申シマスルト概括シタ話デハゴザイマスガ、ソレヲ御分ケニナツタノハドンナモノデゴザイマセウカ、詰リ林叢ト云フト「クサムラ」、即チ開ケテナイ所、ソレハ成ルホド御料林

デモ國有林デモ部分林デモ社寺林デモ、マダ開ケテナイ所ハゴザイマスガ、私ノ分リ兼ネルノハ林叢地ト云フモノニ總括シテ居ルノト、是マデノ如ク一目シテ分ルノト、此御分ケニナツタ事柄ガ私ニハ分リ兼ネマスカラ委シク伺ヒマス

○國務大臣(松岡康毅君) 御答イタシマスガ、是ハ深い意味ハアリマセヌノデゴザイマスガ、唯現行法ノ國有林トカ御料林トカ云フモノガ森林ダト申スノハ、少シ不穩當カト思ヒマスルノハ、アレハ其土地ノ名稱區分ト申ス所デ、

アノ法律ニ於テ略分ッテ居リマスルモノヲ舉ゲマシタノデ、今度ノ法律ハ森林ト申スノト森林所有者ト申スヤウナモノヲ後ミニ能ク分ルヤウニ斯様ニ定義ヲ付ケマシタノデ、土地ノ名稱ハ矢張り第三條ニゴザイマスル通りデ、滅却スルノデハゴザイマセヌ、唯ダ森林ト云フ意味ハ此第一條ノ方ガ稍適當

デアルト云フ所デ定メマシタノデ、實際上ニ於テハヒドイ違ヒモゴザイマスマイガ、唯ダ中ノ法文ニ適用シマスル時分ニ此方ガ便利ガ宜イト云フ次第デアリマス

○武井守正君 私モ御尋ネラ致シタウゴザイマス、本案ヲ通觀イタシマスルト、地籍ノ何タルヲ問ハズ林叢造林ヲセラレタルモノハ皆此森林法ヲ以テ支配サラレルガ如クニ見ラレマス、マサカソナ事ハアリマスマイケレドモ、

若シサウ云フ御精神デハナイカト思ヒマスカラ一應御尋ネ致シマス、今大臣ノ御演說中ニ面積ガ山林原野千九百萬町歩、而シテ收入ガ七八千萬圓内外アルト云フコトノ御話ガアッタヤウデアリマス、既ニ山林原野ト云フ御言葉ガゴ

ザイマスレバ、尙ホ地籍ノ如何ニ拘ラヌ御趣意デアラウト察セラレマスカラ、一應伺ヒマス

〔國務大臣松岡康毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松岡康毅君) チヨット御尋ネシマスガ、地籍ト云フノハ其地籍ノ所有者ノコトデゴザイマスガ、民有社寺有トカ云フ其地籍所有者デゴザイマスガ

○武井守正君 サウデハゴザイマセヌ、山林田畑ト云フ地籍デゴザイマス

○國務大臣(松岡康毅君) 是ハ田畑池沼ト申スヤウナモノハ無論這入リマセヌノデゴザイマシテ、第一條ニ於キマシテ「林叢地及現ニ造林ノ用ニ供スル土地ヲ謂フ」トゴザイマスルノデ、官民有林ノモノナドハ第三條ニゴザイマス通り皆這入リマスケレドモ、田畑若クハ池沼ト申スヤウナモノハ無論這入リマセヌ

○武井守正君 チヨット尙ホ分ラナクナリマシタガ、地籍ニハ原野トカ山林トカ云フ決マリガアリマスガ、其地籍ハドレデモ林叢若クハ造林スレバ地籍ノ如何ニ拘ラズ直グニ森林ノ地籍ニ編入スルト云フ御考デアルカト云フノデス

○國務大臣(松岡康毅君) 其地目ヲ轉換スルカト云フ御尋ネデスカ、畑地デアッテモ森林ニスレバ此法律ノ支配ヲ受ケルカト云フノデスカ

○武井守正君 左様

○國務大臣(松岡康毅君) 其通りデゴザイマス

○武井守正君 是ハ大法律デゴザイマスカラ、特別委員ハ十五名……

○議長(公爵徳川家達君) ソレハマダ次ノ日程デアリマス、他ニ御質問モ無イヤウデゴザイマスカラ、次ノ議事日程ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○武井守正君 此前ニ申シマシタ通り、十五名ノ委員說ヲ提出イタシマス

○伯爵廣澤金次郎君 賛成

○藤田四郎君 十五名說ニ賛成

○議長(公爵徳川家達君) 武井君ニ確メマスガ、其十五名ノ委員ハ此議場デ選舉スルノデアリマスガ

○武井守正君 議長ノ指名ニ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 武井君ノ委員ノ數ヲ十五名、其委員ハ議長ノ指名、武井君ノ說ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三、種牡牛検査法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

種牡牛検査法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十年三月九日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵德川家達殿

種牡牛検査法

第一條 牡牛ハ本法ニ依リ検査ヲ受ケ合格シタルモノニ非サレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス

第二條 検査ニ合格シタル種牡牛ニハ體ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付ス

第三條 證明ノ效力ハ滿一箇年トス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

前項期間内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡牛ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第五條 本法ハ官廳所有ノ種牡牛ニ之ヲ適用セス

第六條 學術研究ノ爲牡牛ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトヲ得

第七條 検査ニ合格セサル牡牛又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡牛ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 種牡牛検査ノ標準ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ當分ノ内島嶼ニ限り本法ヲ施行セサルコトヲ得

第十一條 本法施行前ニ與ヘタル種牡牛ノ免許ハ其ノ免許期間效力ヲ有ス

〔國務大臣松岡康毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松岡康毅君) 本案ハ御覽ノ通り至ッテ簡單ナ法案デゴザイマシテ、其理由ト申シマシテモ亦至ッテ簡單ナ次第デゴザイマシテ、實際ハ此種牡牛ノ検査ニ付キマシテハ府縣ニ於キマシテ追々實行ハ致シテ居リマスガ、兎角同一ニ參リマセヌ所モゴザイマスルシ、何分今日ノ場合、畜産ヲ改良發達イタシマスルコトハ甚ダ必要ナ事デゴザイマシテ、一方ニ於キマシテハ馬ノ如キモ此種馬ノ検査法ト申スモノガ既ニ實行セラレテ居リマス、馬ト相似寄リマシタル所ノ此検査法ヲ設ケマシテ、全國ノ種牡牛ノ検査ヲ統一イタシマシテ、サウシテ尙ホ益、良イ牛ノ種類ニ改メテ參ラウト申ス目的ニ外ナラヌ次第デゴザイマス、甚ダ明瞭ナモノデゴザイマスルカラ、速ニ御賛成ノホドヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 次ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第十四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、是モ議長ガ選定イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十五、市制改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

市制改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十年三月九日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵德川家達殿

市制

第一章 總 則

第一款 市及其ノ區域

第二款 市住民及其ノ權利義務

第三款 市條例及市規則

第二章 市 會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 市行政

第一款 市吏員ノ組織選舉及任免

第二款 市吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第五章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅

第二款 歲入出豫算及決算

第六章 市内一部ノ行政

第七章 市町村組合

第八章 市行政ノ監督

第九章 雜 則

市制

第一章 總 則

第一款 市及其ノ區域

第一款 市ハ從來ノ區域ニ依ル

第二款 市ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三款 町村ヲ變シテ市ト爲シ市ヲ變シテ町村ト爲スコトヲ要スルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 町村ヲ市ニ合併シ又ハ市ノ區域ヲ分割シ若ハ市ノ境界變更ヲ要スルトキハ町村制第三條ヲ準用ス所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入スルトキ亦同シ

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ裁決及決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ關係市町村ニ交付スヘシ

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ從來ノ區ヲ存ス其ノ區ハ財產ニ關スル事務其ノ他法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ第四條第五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 市ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要スルトキハ市ノ申請ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ要スルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

勅令ヲ以テ指定シタル市ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更スルコトヲ要スルトキハ前二項ノ例ニ依ル

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ一戸ヲ構フル滿二十五年以上ノ男子ニ

簡年以來市ノ住民ト爲リ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ及其ノ市内ニ於テ直接國稅ヲ納ムル者ハ其ノ市公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二

簡年ヲ經サル者及禁治產者準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

市ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ前項二簡年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル

納税ヲ以テ其ノ者ノ納税シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

市税ヲ賦課セサル市ニ在リテハ第一項市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セラルル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ退職シ又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一箇年以上四箇年以下市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止年期以内其ノ者ノ負擔スヘキ市税ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ市内ニ居ルコトヲ得サル者

三 滿六十一年以上ノ者

四 官職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四箇年以上名譽職市吏員名譽職參事會員市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民ニシテ第九條ニ掲ケタル要件ノ一ヲ失フトキハ其ノ公民權ヲ失フ

市公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

市會議員ノ定數ハ人口五萬未滿ノ市ニ於テハ三十人人口五萬以上ノ市ニ於テハ三十六人トシ人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口五萬ヲ加フル毎二人人口二十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎三議員三人ヲ増シ六十人ヲ定限トス

市會議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得但シ定限ヲ超ユルコトヲ得ス

市會議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ直接市税ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納税スル者三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ第九條ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ直接市税ヲ賦課セサル市ニ在リテハ其ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

本條ノ直接市税及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選舉人ハ分テ三級ト爲ス

選舉人中直接市税ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數五名ニ滿タサルトキハ納額最多キ者五名ヲ以テ一級トス

一級選舉人ノ外直接市税ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市税ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納税者二名以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テ年齡同シキトキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人毎級各別ニ議員ノ三分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得直接市税ヲ賦課セサル市ニ在リテハ本條ノ納税額ハ選舉人ノ市内ニ於テ納ムル直接納税額ニ依ルヘシ

本條ノ直接市税及直接納税ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ準用ス第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルモ妨クナシ

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム市内ニ住所ナキ者ハ直接市税又ハ直接納税ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ若物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課税ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員ノ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ニ付テハ第二項ノ例ニ依ル

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級若ハ三級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルモ妨ケナシ

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ市ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收税官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

市ノ爲工事ノ請負物件勞力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ市ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員タルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ若同數ナルトキハ年長者ヲ當選トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

市長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者市長ニ推薦セラレ其ノ裁可ヲ受ケ又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フ

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

市會議員ノ任期ハ四箇年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ次ノ總選舉迄在任ス

選舉區ノ變更又ハ各選舉區ヨリ選出スヘキ議員數ノ變更ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 市會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事若ハ市長市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス
ヘシ

第二十一條 市長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人
ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ選
舉區毎ニ名簿ヲ調製シ選舉分會ヲ設クルトキハ名簿ニ依リ分會ノ區畫毎
ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項名簿及抄本ヲ調
製セシムヘシ

市長ハ其ノ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨ
リ午後四時迄市役所第二項ノ市ニ又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ
關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之
ヲ市長第二項ノ市ニ於ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縱覽
期限後三日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨ
リ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項市會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル
者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ決定又ハ裁決ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起
スルコトヲ得

前三項ノ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ヲ修正ヲ要ス
ルトキハ市長第二項ノ市ニハ其ノ確定期日迄ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日ヲ以テ確定ス
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一箇年以内ニ於テ行
フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿
ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日ノ前三日迄
ニ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ
確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ選舉人名
簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場
ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接市稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者

ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキ
ハ一級ニ於テ二級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ
三級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコ
トヲ得但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無
效トナリタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製縱覽修正及確
定ニ關スル期日及期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル天災事變等ニ依リ
名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉ノ期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用
非縱覽修正及確定ニ關スル期日等ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條 選舉ヲ行フトキハ市長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉
會場投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區ヲ設ク
ル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ仍選舉區毎ニ分別シ選舉分
會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區畫ヲ告示スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入リタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲
スコトヲ得

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ開始シ選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開
始スヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級
ノ選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス
各選舉區ニ於ケル選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員シタル市ニ於テ
ハ區選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ市長ノ指名シタル吏員分會掛長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ
任ス

市長勅令ヲ以テ指定シタル臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會
人ヲ選任スヘシ但シ選舉區又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立
會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十四條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得但シ選舉會場ノ事務ニ

從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ分會掛長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ
前項ニ依リ選舉會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉會場閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用フヘシ
投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘシ

選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ行フヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ送致スヘシ

第二十六條 増員選舉補關選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 第十四條第二項及第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ滿二十五年以上ノ男子ニ非サル者禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル滿二十五年以上ノ男子ニ限ル

第九條第一項但書ニ當ル者第十條ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會掛長ニ示スヘシ

第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ノ法ヲ用フタル場合ニ於テハ第一號及第六號ニ該當スルモノ及其ノ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用フサルモノ

二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ分會掛長之ヲ決スヘシ

第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス
二回選舉ニ於テ仍當選者選舉スヘキ議員數ニ達セサルトキハ前項但書ヲ適用セス

前項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十一條 選舉長又ハ分會掛長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄 勅令ヲ以テ指定シタルヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

選舉分會掛長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長 勅令ヲ以テ指定シタルハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ但シ第十八條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス但シ第十八條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本項ニ定ムル期間ヲ二十日トス

第三十三條 市會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ第三十條ノ例ニ依リ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ム

第三十四條 選舉ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セサルトキハ市長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項市會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ前條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ前條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項府縣參事會ノ決定アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

本條府縣參事會ノ決定又ハ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生

スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ被選舉權ヲ有セサル爲其ノ他當選無効ト確定シタルトキハ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム

第三十七條 選舉ニシテ無効ト確定シタルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十八條 市會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ市會之ヲ決定ス

市長ニ於テ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ

本條市會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

市會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十九條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ開設スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市條例及市規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ第九十二條ノ事務其ノ他法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定メ豫備費ノ支出ヲ認定スル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金市稅及夫役現

品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令中ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事

第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ總選舉毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條 市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキ

ハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ同一ノ事件ニ付招集再同ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又

ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市會ノ同意ヲ得

タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律勅令ノ規定ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數

ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數

者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年

長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ議決ス

前項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須弗ス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 市會議員ハ選舉人ノ指示又ハ委嘱ヲ受クヘカラス
市會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム
書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ
第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長

二 助役
三 名譽職參事會員 勅令ヲ以テ指定シタル市ハ各八名其ノ他ノ市ハ各六名

第六十五條 名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ關シテハ第二十五條第二十八條第三十條及第三十三條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ議決ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
名譽職參事會員ハ市會議員ノ總選舉毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ後任者就任ノ日迄在任ス

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス市長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ會員中ヨリ臨時ニ假議長ヲ選舉スヘシ

第二款 職務權限及處務規程

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事

三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ招集ス名譽職參事會員半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

第六十九條 市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ關キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條及第六十二條第

一項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市行政

第一款 市吏員ノ組織選舉及任免

第七十二條 市ニ市長助役各一名ヲ置ク但シ勅令ヲ以テ指定シタル市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第七十三條 市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ六箇年トス

內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十四條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ六箇年トス

助役ハ市會之ヲ選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長市會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十五條 市公民ニ非スシテ市長又ハ助役タル者ハ在職ノ間其ノ市公民權ヲ得

第七十六條 市長及助役ハ第十八條第二項ニ掲ケタル職ト相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ市ノ爲工事ノ請負物件勞力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市長及助役タルコトヲ得ス若其ノ緣故アル者助役ノ選舉ニ當リタルトキハ其ノ當選ヲ無効トシ市長ニ推薦セラレ其ノ裁可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル助役ハ其ノ職ヲ失フ助役數名アル場合ハ第十八條第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 市長及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業又ハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長及助役ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第七十八條 市ニ收入役一名ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選定シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及副收入役ニ關シテハ第七十四條第一項第三項及第七十五條乃至

第七十七條ノ規定ヲ準用ス

市長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ收入役又ハ副收入役タルコトヲ得ス若收入役又ハ副收入役トノ間ニ其ノ緣故アル者市長ニ推薦セラレ其ノ裁可ヲ受ケ又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル收入役又ハ副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

第七十九條 勅令ヲ以テ指定シタル市ノ區ニ區長一名ヲ置キ有給吏員トシ府縣知事ノ認可ヲ得テ市長之ヲ任免ス

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

區長ニ關シテハ第七十四條第四項第七十五條第七十六條第一項及第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第八十條 前條ノ市ハ區ニ區收入役一名又ハ區收入役及區副收入役各一名ヲ置クコトヲ得

區收入役及區副收入役ハ市長助役市收入役市副收入役區長トノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル區ノ吏員中ニ就キ市長之ヲ命ス

第八十一條 第七十九條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス

區長及其ノ代理者ハ市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第八十二條 市ハ市條例ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第八十三條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレ又ハ第十一條第三項ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタル力爲公民權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ又ハ第十一條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ併セテ其ノ報

又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第八十四條 前數條ニ定ムルモノノ外市ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十五條 前數條ニ定ムルモノノ外第七十九條ノ市ノ區ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 市吏員ノ職務權限及處務規程

第八十六條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料手数料加入金市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十七條 市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審查ニ付シ若市參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ市參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

第八十八條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ其ノ任免ニ係ル市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第八十九條 市會又ハ市參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ裁決又ハ處分ニ不服アル市長市會市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ其ノ議決市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

前項裁決ニ不服アル市長市會市參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 市會成立セス又ハ第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ若ハ市長ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ

市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得第五十四條ノ規定ニ依リ出席議員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

前項ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市長及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

市參事會成立セス又ハ第七十條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ議決スヘキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得同條第二項ノ規定ニ依リ出席會員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

市會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參事會ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十一條 市參事會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セス又ハ市長ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ又ハ第七十條第二項ノ規定ニ依リ出席會員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其ノ處分ヲ市參事會ニ報告スヘシ

前項市長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコ

トヲ得

第九十二條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌ル

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市行政事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十四條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第九十五條 收入役ハ市ノ出納其ノ他會計事務及第九十二條ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

第七十九條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九十六條 第七十九條ノ區長ハ市長又ハ市收入役ノ命ヲ受ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區ノ上席吏員之ヲ代理ス

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規

定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣市其ノ他公共團體及區ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

區收入役區副收入役ニ關シテハ第九十五條第二項第三項第五項及第六項ノ規定ヲ準用ス

區收入役區副收入役ノ職務權限處務規程ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外市收入役市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條 第八十一條ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助執行ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第九十九條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他市行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第一百條 第八十四條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第一百一條 第八十五條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第一百二條 市長ハ處務規程ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三款 給料及給與

第一百三條 市會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職區長區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第一百四條 市長助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

市長ノ給料額ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

市長ノ給料支給方法旅費額及其ノ支給方法助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第一百五條 有給吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ム

第一百六條 前數條ニ定ムルモノノ外市ニ於テ吏員又ハ其ノ退職者ニ對シ賞

與慰勞其ノ他特別ノ給與ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條 費用辨償報酬給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得前項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八條 費用辨償報酬給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料其ノ他諸給與ハ市ノ負擔トス

第五章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅

第九條 市ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

臨時ニ取得シタル財産ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ基本財産ニ加入スヘキモノノ全部又ハ一部ヲ特別ノ基本財産又ハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得

第十條 舊來ノ慣行ニ依リ數個人又ハ市内ノ一部ニ於テ特ニ營造物又ハ財産ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ其ノ舊慣ニ依リ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其ノ舊慣ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ス

前項ノ營造物又ハ財産ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 市ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第十二條 市ハ營造物又ハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

數個人又ハ市内ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財産ノ使用ニ關シテハ使用料

若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第十三條 市ハ第一百十條及前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第十四條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 市ハ其ノ公益上必用アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財産ヨリ生スル收入使用料手數料過料過怠金其ノ他法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第十八條 三箇月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

テハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ數市町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係市町村ニ於テ附加税ヲ賦課スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依ル住所滞在數市町村ニ涉ル者ノ收入ニ對シ市税ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ關係市町村ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第二百一十一條 所得税法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社遙拜所寺院洞宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者ニ賦課スル場合及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツルモノハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

前各項ノ外市税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル市税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル
第二百二十二條 數個人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市内ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入又ハ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

數個人又ハ市内ノ一部ヲ利スル財産ニ付テモ亦本條ノ例ニ依ル

第二百二十三條 數個人又ハ市内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 市税及其ノ賦課徵收ニ關シテハ法律中規定アルモノノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二百二十五條 市ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ納稅義務者ノ全部又ハ一

部ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接市税ヲ準率ト爲シ直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二百二十六條 市税ノ賦課ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二百二十七條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市長ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市參事會ノ議決ヲ經テ市税ヲ減免スルコトヲ得

第二百二十八條 使用料手数料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ二圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル市規則ニ付亦同シ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ市長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第二百二十九條 市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後三ヶ月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料手数料加入金ノ徵收及夫役現品ノ賦課ニ關シテモ亦前數項ノ例ニ依ル

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百三十條 市稅使用料手数料加入金過料過怠金其ノ他市ノ收入ヲ定期

内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ

代フル金錢ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ督促スヘシ其ノ急迫

ノ場合ニ賦課シタルモノニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ

其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ仍之

ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還

付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條市長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル

者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三百三十一條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ

支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲已ヲ得サル場合ニ限り市債ヲ起スコ

トヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及

償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ

得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歲入出豫算及決算

第三百三十二條 市長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遅クトモ年度開始ノ

一箇月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第三百三十三條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモ

ノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ

年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三百三十五條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設ク

ヘシ

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三百三十六條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要

領ヲ告示スヘシ

第三百三十七條 市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三百三十八條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收

入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

又市長ノ命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用

其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第三百三十九條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第四百十條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ且每會計年度少クトモ

二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事

會員二名以上ノ立會ヲ要ス

第四百十一條 市ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ限トス

決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提

出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ

之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ且決算ハ其

ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長及助役共ニ故障アルモ

ノトス

第四百二十二條 豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第六章 市内一部ノ行政

第四百二十三條 市内ノ一部ニ於テ從來所有スル財産ノ管理及處分ハ市有財産ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ爲特ニ要スル費用ハ其ノ財産ヲ所有スル市内ノ一部ノ負擔トス
市内一部ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第四百四十四條 市内ノ一部ニ於テ有スル財産又ハ市内ノ一部ヲ利スル財産營造物ニ關シ必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ該事件ニ關シ市會ノ議決スヘキ事項ノ全部又ハ一部ヲ議決セシムルコトヲ得

第四百四十五條 區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定員任期及選舉權被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第四百四十六條 區會議員ノ選舉ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿選舉又ハ當選ノ效力及被選舉權ニ關スル異議ノ決定ハ市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ市條例ヲ以テ選舉人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得
區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百四十七條 市内一部ノ行政ニ關シ本章中規定スルモノノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 市町村組合

第四百四十八條 市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

第四百四十九條 前條ノ市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サントスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五百十條 市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第五百十一條 組合規約ニ於テハ組合ノ名稱組合ヲ組織スル市町村組合ノ共同事務組合役場ノ位置組合會ノ組織及選舉組合吏員ノ組織及選任組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クルコトヲ要ス

第五百十二條 市町村組合ハ法人トス
市町村組合ニ關シテハ市ニ關スル規定ヲ準用ス但シ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五百十三條 市町村組合ヲ解カントスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

第五百十四條 第四百四十九條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產處分其ノ他必要ナル事項ハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四百四十九條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產處分其ノ他必要ナル事項ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ許可ヲ定ム

第五百十五條 第四百四十八條第二項第四百四十九條第二項第五百十條第二項及第五百十三條第二項ノ場合ヲ除クノ外本章府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第八章 市行政ノ監督

第五百十六條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第五百十七條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコ

トヲ得ス

第五百五十八條 本法ニ依リ府縣參事會ノ議決決定若ハ裁決ヲ請ヒ又ハ府縣參事會ニ對シ訴願ヲ爲ス場合ニ於テハ府縣知事ニ之ヲ申立ツヘシ

第五百五十九條 本法ニ規定スル異議又ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ
本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第六十條 監督官廳ハ市行政ノ法令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ又ハ其ノ事務錯亂澁滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ市行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市行政ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第六十一條 監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ市會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第六十二條 內務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

市會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第六十三條 市ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

市又ハ市長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ

其ノ費用ハ市ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十四條 市長助役收入役副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘシ臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第六十五條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市條例ヲ設ケ及改廢スル事

二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ大ナル變更ヲ爲ス事
三 使用料手数料加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第六十六條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第三百三十一條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租十分ノ三其ノ他直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第六十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

三 特別基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

四 第一百十條ノ處分ヲ爲ス事

五 寄附又ハ補助ヲ爲ス事

六 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第八百二十二條ニ依リ數個人又ハ市内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
九 市稅納稅義務者ノ一部ニ對シ又ハ第八百二十五條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

十一 特別會計ヲ設クル事

第六十八條 市ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第六十九條 市ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第七十條 府縣知事ハ市長助役收入役副收入役委員區長區長代理者其ノ他市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長助役收入役副收入役及第七十九條ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經市長ニ付テハ仍勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ町村制第五十四條ノ定ムル所ニ依ル

解職ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長助役收入役副收入役及第七十九條ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二箇年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セララルコトヲ得ス

第七十一條 市吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九章 雜則

第七十二條 本法ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事府縣參事會ヲ指定スヘシ

第七十三條 本法中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定シタル市ノ有給吏員ノ組織任用分限等及區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 本法ニ記載スル人口ハ內務大臣ノ告示スル所ニ依ル

第七十五條 本法ニ定ムル直接税ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第七十六條 本法施行ノ際現ニ市會議員區會議員ノ職ニ在ル者ハ本法施行後舊規定ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 市制改正法律案ノ說明ヲ致サウト思ヒマスガ、便宜上、町村制改正法律案モ併セテ說明イタシタイト考ヘマス、是ハ未ダ議題トハナツテ居リマセヌケレドモ、次ノ日程ニアリマスルカラ併セラ上ゲル方ガ御參考ニ供スルニ便宜ト思ヒマス、此市制改正案ハ町村制改正案ト共ニ昨年提出イタシマシテ議了ニ至ラヌノデアリマス、當時モ今回ノ如ク郡制廢止法案、市制改正法律案、町村制改正法律案、併セテ三案ヲ提出イタシマシテ、即チ郡制ノ方ハ既ニ委員ニ付託サレテアリマスガ、此町村制ト市制ハ今日議題ニ供セラレル都合ニナツテ居ルノデアリマス、デ是ハ市制ノ方ハ昨年提出イタシマシタノト毫モ變ハリハゴザイマセヌ、町村制ニ至リマシテハ、昨年提出イタシマシタ原案中ニ衆議院ノ修正ニ同意ヲ致シマシタ點ハ悉ク此修正通りニ致シマシタ、同意ヲ致シ兼ネマシタ點ハ、原案ノ通りニシテ提出イタシマシタ、是ダゲハ多少昨年ノ原案ト變ハリマシタ所ガ、即チ衆議院ノ修正ニ同意イタシタ點ダケデアリマス、デ此市制並ニ町村制ニ付キマシテハ、多年內務省ニ於キマシテ實際ノ狀況ニ照シテ篤ト調査ヲ致シ改正イタスベキ點ハ多々アルノヲ調べマシテ、此改正案ヲ編ミ出シタ次第デアリマス、デ昨年モ既ニ說明ヲ致シマシタ如ク、重ネテ申ス程ノ特別ノ理由ハ存在イタシマセヌ、併シ大體ヲ申上ゲマスレバ、今日ノ市制デハ責任ノ所在ガ甚ダ不明瞭ナヤウナ點モアリマスシ、又監督ノ點ニ於テモ、多少不滿ヲ唱ヘル次第モアリマス、其外ノ各條ニ至リマシテモ改正ヲ加ヘナケレバナラヌ次第ヲ見出スノデアリマス、町村制ニ致シマシテモ同様ナ次第デ、此條項モ大層長ウゴザイマシテ、悉ク申セバ甚ダ長時間ヲ費ス譯デアリマスガ、大體ヲ申セバ是亦以テ地方ノ今日ノ狀況ニ照シマシテハ甚ダ不備ナ點ガ多イ、町村長ノ仕事ニ致シマシテモ、其外選舉ノ關係ヲ見マシテモ、改正ヲ加ヘナケレバナラヌコトガ多々アルノデアリマス、是等ノ實況ニ顧ミマシテ、此改正案ハ今日ニ於テハ最モ必要ナリト考ヘマス、衆議院ニ於ケル修正ニ同意ヲ致シマシタ點モ、是亦當時

段々差支ヲ見マセヌデ同意ヲ致シマシタカラ、今日ノ原案ニ改メタ譯デアリマス、同意ヲ致シ兼ネマシタ點ハ、町村長ノ名譽職、町村長ノ被選舉權ニ關シマシテ修正ガアリマシタガ、是ハ同意ヲ致シ兼ネマシテ、原案ノ通りデ衆議院ヲ通過イタシマシタ、又町村會ニ於テ町村長ヲ町村會ノ議長ト致サズシテ、別ニ議長ヲ設クルコトニシタガ、是亦町村會議長ノ如キハ矢張り現行法ノ如ク致シテ置ク方ガ宜イト云フコトデ、特別ニ議長ヲ作ルト云フコトハ却ッテ不便ヲ感ジ、必要ナラザルコト、考ヘマシテ、是ハ同意ヲ致シ兼ネマシタ、即チ原案ノ通りニ致シテ、茲ニ提出イタシマシタ、是ハ衆議院ニ於テモ亦今回ハ政府案ニ同意イタシマシタ、其他市制町村制ニ於テモ、衆議院ニ於テ僅ノ修正ガアリマシタガ、是ハ何レニナリマシテモ、左マデノ關係ハ無イコトデアリマス、大體斯ル次第デアリマシテ、既ニ諸君ニ於テハ、昨年ニ於テ御覽ニナリマシタ案デアリマス、委シク申ス必要ハ無イト思ヒマスガ篤ト御審査ノ上ニ御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、議事日程ノ第十五、竝ニ第十七ハ一括シテ議題ト致シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ハ無イト認メマス

町村制改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十年三月九日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵德川家達殿

〔小字ハ修正〕

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第三款 町村條例及町村規則

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選舉及任免

第二款 町村吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第四章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村稅

第二款 歲入出豫算及決算

第五章 町村内一部ノ行政

第六章 町村組合

第七章 町村行政ノ監督

第八章 雜則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 町村ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 町村ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ裁決及決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ關係町村ニ交付スヘシ

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五條 町村ノ名稱ヲ變更シ又ハ村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲スコトヲ要スルトキハ町村ノ申請ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム
町村役場ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ要スルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第六條 町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス

町村住民ハ本法ニ從ヒ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ一戸ヲ構フル滿二十五年以上ノ男子二箇年以來町村ノ住民ト爲リ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ及其ノ町村内ニ於テ直接國稅ヲ納ムル者ハ其ノ町村公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二箇年ヲ經サル者及禁治產者準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス
町村ハ郡長ノ許可ヲ得テ前項二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル國稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

町村公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシ

町村稅ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ第一項町村公民ノ要件中町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ退職シ又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一箇年以上四箇年以下町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止年期以内其ノ者ノ負擔スヘキ町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 滿六十年以上ノ者

四 官職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四箇年以上名譽職町村吏員町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後

同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條 町村公民ニシテ第七條ニ掲ケタル要件ノ一ヲ失フトキハ其ノ公民權ヲ失フ

町村公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 町村條例及町村規則

第十條 町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ町村條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村ノ營造物ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ之ヲ選舉ス

町村會議員ノ定數左ノ如シ

一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ 議員八人

一 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ 議員十二人

一 人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員十八人

一 人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員二十四人

一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員三十人

町村會議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得但シ三十人ヲ超ユルコトヲ得ス

町村會議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シ

ク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ
直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ其ノ町村內ニ於テ納ムル直接國稅ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

本條ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ數五名ニ滿タサルトキハ納額最多キ者五名ヲ以テ一級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其ノ町村內ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齡同シキトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス

被選舉人ハ同級內ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セラルコトヲ得

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ本條ノ納稅額ハ選舉人ノ町村內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

本條ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ準用ス

特別ノ事情アリテ本條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第十四條 特別ノ事情アルトキハ町村ハ郡長ノ許可ヲ得區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルモ妨ケナ

シ

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員

二 其ノ町村ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

町村ノ爲工事ノ請負物件勞力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ町村ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ町村ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ若同數ナルトキハ年長者ヲ當選トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

町村長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フ

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス

町村會議員ノ任期ハ四箇年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ次ノ總選舉迄在任ス

第十七條 町村會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ郡長若ハ町村長町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第十八條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ名簿ニ依リ分會ノ區畫毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

町村長ハ其ノ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縦覽期限後三日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ決定又ハ裁決ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ其ノ確定期日迄ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日ヲ以テ確定ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一箇年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ユ但シ名簿確定後訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日ノ前三日迄ニ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接町村税又ハ直接國税ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ但シ直接町村税又ハ直接國税ヲ以テ等級ノ標準ト爲ササル町村ニ於テハ選舉長ノ定ムル所ニ依ル

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコ

トヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製縦覽修正及確定ニ關スル期日及期限等ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ天災事變等ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉ノ期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用非縦覽修正及確定ニ關スル期日等ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日日前ニ選舉會場投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設ケル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區畫ヲ告示スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開始スヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ町村長ノ指名シタル吏員分會掛長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十一條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ分會掛長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ前項ニ依リ選舉會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉會場閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照

ヲ經テ投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ
投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘ
キ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ送致スヘシ

第二十三條 増員選舉補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ
合併シテ之ヲ行フ

第二十四條 第十二條第二項及第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出
シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ滿二十五年以上ノ男子ニ非サル者禁治產者
及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル滿二十五年以上
ノ男子ニ限ル

第七條第一項但書ニ當ル者第八條ニ依ル公權停止中ノ者及第九條第二
項ノ公權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ
得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會掛長ニ示スヘシ
第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ノ法ヲ用フタル場合ニ
於テハ第一號及第六號ニ該當スルモノ及其ノ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ

定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ第二號第四號及第五號ニ該當スルモ
ノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用弗サルモノ

二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又
ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキ

ハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナル
トキハ分會掛長之ヲ決スヘシ

第二十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選
者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレ
タル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要
ス

二 同選舉ニ於テ仍當選者選舉スヘキ議員數ニ達セサルトキハ前項但書ヲ適用セス

前。項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ
年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第二十八條 選舉長又ハ分會掛長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ
記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ
之ニ署名スヘシ

選舉分會掛長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ
選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定ス
ルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十九條 當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告
知スヘシ

當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五
日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ但シ第十五條第三項ノ官吏ニシテ當選
シタル者ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スル
ヤ否ヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ其ノ當選
ヲ辭シタルモノト看做ス

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日
ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間
内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス但シ第十
五條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本項ニ定ムル期間ヲ二
十日トス

第三十條 町村會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ第二十七條ノ例ニ
依リ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ム

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ町村長ハ直ニ選舉録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セサルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示併セテ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第三十二條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

郡長ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ前條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ前條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項郡長ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無効トス

本條郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第二項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生

スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ被選舉權ヲ有セサル爲其ノ他當選無

効ト確定シタルトキハ第二十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム

第三十四條 選舉ニシテ無効ト確定シタルトキ又ハ前數條ノ規定ニ依リ議

員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十五條 町村會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ町村會之ヲ決定ス

町村長ニ於テ町村會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ

本條町村會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十六條 本款ニ規定スル異議ノ決定訴願ノ裁決及第三十二條第三項ノ處分ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ開設スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第三十八條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村條例及町村規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ第七十八條ノ事務其ノ他法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定メ豫備費ノ支出ヲ認定スル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金町村稅及夫役

六 不動產ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令中ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 町村ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十一條 町村會ハ法律勅令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十二條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條 町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第四十四條 町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セス又ハ町村會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トシ町村長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十六條 町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之ヲ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得「招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第四十八條 町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ同一ノ事件ニ付招集再同ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條 法律勅令ノ規定ニ依リ町村會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ議決ス

前項ノ選舉ニ付テハ町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十二條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第五十三條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十四條 町村會議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

第五十五條 町村會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十六條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第五十七條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナ

ル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十九條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第六十條 町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選舉及任免

第六十一條 町村ニ町村長助役各一名ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ増加スルコトヲ得

第六十二條 町村長及助役ハ名譽職トス

町村ノ情況ニ依リ町村條例ヲ以テ町村長助役ヲ有給ト爲スコトヲ得

第六十三條 町村長及助役ノ任期ハ四箇年トス

第六十四條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉スヘシ但シ特ニ必要アル場合ニ於テハ一戸ヲ構ヘサル者ト雖他ノ被選資格ノ要件ヲ具備スルトキハ之ヲ選舉スルコトヲ得

町村公民ニ非スシテ町村長又ハ助役タル者ハ在職ノ間其ノ町村公民權ヲ得

第六十五條 町村長又ハ助役ヲ選舉シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

町村長及助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコト

ヲ得ス

前項ノ認可ヲ受ケタル者ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第六十六條 町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲ケタル職ト相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ町村ノ爲工事ノ請負物件努力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲シ又ハ其ノ町村ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員タルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役タルコトヲ得ス若其ノ緣故アル者助役ノ選舉ニ當リタルトキハ其ノ當選ヲ無効トシ町村長ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル助役ハ其ノ職ヲ失フ助役數名アル場合ハ第十五條第五項ノ規定ヲ準用ス

第六十七條 有給町村長及有給助役ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業又ハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス
有給町村長及有給助役ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第六十八條 町村ニ收入役一名ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入役一名ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四箇年トス

收入役及副收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選定シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及副收入役ニ關シテハ第六十四條第三項第六十五條第二項第六十六條及第六十七條ノ規定ヲ準用ス

町村長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ收入役又ハ副收入役タルコトヲ得ス若收入役又ハ副收入役トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル收入役又ハ副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

特別ノ事情アル町村ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十九條 町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス

區長及其ノ代理者ハ町村會ニ於テ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ

選舉ス

第七十條 町村ハ町村條例ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十一條 名譽職町村長及名譽職助役其ノ他町村公民ニ限リテ擔任スヘ

キ職務ニ在ル吏員ニシテ町村公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレ又ハ第九條第三項ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲公民權ヲ得ヘキ職務

ニ在ル者ニシテ禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ又ハ第九條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ及第六十四條第二項但書ニ依リ選舉セラレタル者ニシテ其ノ被選資格ノ要件ヲ失フトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ併セテ其ノ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第七十二條 前數條ニ定ムルモノノ外町村ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置キ町村長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 町村吏員ノ職務權限及處務規程

第七十三條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料手数料加入金町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第七十四條 町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ其ノ任免ニ係ル町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過意金トス

第七十五條 町村會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則

ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項郡長ノ處分ニ不服アル町村長町村會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ前二項ノ裁決若ハ處分ニ不服アル町村長町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村會ノ議決公益ヲ害シ又ハ其ノ議決町村ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ノ指揮ヲ請フヘシ

前項郡長ノ處分ニ不服アル町村長町村會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十六條 町村會成立セス又ハ第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ郡長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十條ノ規定ニ依リ出席議員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル町村長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第七十七條 町村會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セス又ハ町村長ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ又ハ第五十條ノ規定ニ依リ出席議員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其ノ處分ヲ町村會ニ報告

スヘシ

前項町村長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十八條 町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌ル

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村行政事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス
助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第八十一條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他會計事務及第七十八條ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助ス
町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

副收入役ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十二條 區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助執行ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十三條 委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第八十四條 第七十二條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
第八十五條 町村長ハ處務規程ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三款 給料及給與

第八十六條 町村會議員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長名譽職助役區長及區長代理者並委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經郡長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第八十七條 有給町村長有給助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經郡長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第八十八條 有給吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ町村條例ヲ以テ之ヲ定ム

第八十九條 前數條ニ定ムルモノノ外町村ニ於テ吏員又ハ其ノ退職者ニ對シ賞與慰勞其ノ他特別ノ給與ヲ爲サムトスルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十條 費用辨償報酬給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 費用辨償報酬給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料其ノ他諸給與ハ町村ノ負擔トス

第四章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村稅

第九十二條 町村ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

臨時ニ取得シタル財産ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ基本財産ニ加入スヘキモノノ全部又ハ一部ヲ特別

ノ基本財産又ハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得

第九十三條 舊來ノ慣行ニ依リ數個人又ハ町村内ノ一部ニ於テ特ニ營造物又ハ財産ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ其ノ舊慣ニ依リ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其ノ舊慣ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ス
前項ノ營造物又ハ財産ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十四條 町村ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十五條 町村ハ營造物又ハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

數個人又ハ町村内ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財産ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得
町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十六條 町村ハ第九十三條及前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第九十七條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス
第九十八條 町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財産ヨリ生スル收入使用料手數料過料過意金其ノ他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第一百條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第一百一條 三箇月以上町村内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ廻リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百二條 町村内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖町村内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第一百三條 納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ數市町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係市町村ニ於テ附加稅ヲ賦課スルコトキハ命令ノ定ムル所ニ依ル
住所滞在數市町村ニ涉ル者ノ收入ニ對シ町村稅ヲ賦課スルコトキハ其ノ收入ヲ關係市町村ニ平分シ其ノ一部ニミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス
第一百四條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社遙拜所寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者ニ賦課スル場合及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツルモノハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
前各項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル
第百五條 數個人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關
係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村内ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内
ニ於テ町村税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入又ハ一部ノ收入アルトキハ先
ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

數個人又ハ町村内ノ一部ヲ利スル財産ニ付テモ本條ノ例ニ依ル

第百六條 數個人又ハ町村内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ不
均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百七條 町村税及其ノ賦課徵收ニ關シテハ法律中規定アルモノノ外勅令
ノ定ムル所ニ依ル

第百八條 町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ納稅義務者ノ全部又ハ一部
ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得
ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村税ヲ準率ト爲シ直接町村税
ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ
賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代
人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金錢ヲ以テ之ニ
代フルコトヲ得

第百九條 町村税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ
日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅營業所ニ臨檢シ又ハ帳
簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第百十條 町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ納
稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ
町村長ハ特別ノ事情アル者ニ限リ町村會ノ議決ヲ經テ町村税ヲ減免スル
コトヲ得

第百十一條 使用料手数料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ
之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ二圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコ
トヲ得營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル町村規則ニ付亦同シ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府
縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ
得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第百十二條 町村税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト
認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後三箇月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲ス
コトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツ
ルコトヲ得

本條ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣
參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ
得

使用料手数料加入金ノ徵收及夫役現品ノ賦課ニ關シテモ亦前數項ノ例ニ
依ル

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコト
ヲ得

第百十三條 町村税使用料手数料加入金過料過怠金其ノ他町村ノ收入ヲ定
期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ
代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ督促スヘシ其ノ急
迫ノ場合ニ賦課シタルモノニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シ
テ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ
得

滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ仍之
ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ
本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還
付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
本條町村長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服ア
ル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
第百十四條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘ
キ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ已ヲ得サル場合ニ限り町村債ヲ起
スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定
率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコト
ヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歲入出豫算及決算

第百十五條 町村長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ
一箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提
出スヘシ

第百十六條 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲ス
コトヲ得

第百十七條 町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモ
ノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其
ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百十八條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘ
シ

豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十九條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告
示スヘシ

第百二十條 町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十一條 町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本
ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得
ス又町村長ノ命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目
流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

本條ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス
第百二十二條 町村ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依
ル

第百二十三條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ且每會計年度少クト
モ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ町村長之ヲ爲シ臨時検査ニハ町村會ニ於テ選舉シタル議員二名以
上ノ立會ヲ要ス

第百二十四條 町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ限トス

決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ
提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議
迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第六十八條第六項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌
シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ハ之ヲ郡長ニ報告シ且決算ハ其ノ
要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ故障アルモノトス
第百二十五條 豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定
ハ内務大臣之ヲ定ム

第五章 町村内一部ノ行政

第百二十六條 町村内ノ一部ニ於テ從來所有スル財産ノ管理及處分ハ町村
有財産ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限
ニ在ラス

前項ノ爲メ特ニ要スル費用ハ其ノ財産ヲ所有スル町村内ノ一部ノ負擔トス
町村内一部ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第百二十七條 町村内ノ一部ニ於テ有スル財産又ハ町村内ノ一部ヲ利スル
財産營造物ニ關シ必要アル場合ニ於テハ郡長ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町
村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ該事件ニ關シ町村會ノ議決スヘ
キ事項ノ全部又ハ一部ヲ議決セシムルコトヲ得

第百二十八條 區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定員任期及選舉權被選舉
權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第百二十九條 區會議員ノ選舉ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス

但シ選舉人名簿選舉又ハ當選ノ效力及被選舉權ニ關スル異議ノ決定ハ町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十條 町村内一部ノ行政ニ關シ本章中規定スルモノノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 町村組合

第三十一條 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ニシテ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ本條ノ町村組合ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サントスルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セムトスルトキハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ増加セムトスルトキハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラントスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ一部事務ノ爲設ケタル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ノ變更ヲ要スルトキハ一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ組合會ノ

議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第三十四條 組合規約ニ於テハ組合ノ名稱組合ヲ組織スル町村組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムルコトヲ要ス

一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ於テハ前項ノ外仍組合會ノ組織及選舉組合吏員ノ組織及選任組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クルコトヲ要ス

第三十五條 町村組合ハ法人トス

町村組合ニ關シテハ町村ニ關スル規定ヲ準用ス但シ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ解クコトヲ得

第三十七條 第三十二條第一項第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產處分其ノ他必要ナル事項ハ關係町村若ハ組合トノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十二條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產處分其ノ他必要ナル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ定ム

第三十八條 第三十一條第三項第三十二條第三項第三十三條第三項及第三十六條第二項ノ場合ヲ除クノ外本章府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章 町村行政ノ監督

第三十九條 町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第四十條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ノ行政ニ關スル郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内

務大臣ニ訴願スルコトヲ得

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四百四十一條 本法ニ依リ府縣參事會ノ裁決ヲ請ヒ又ハ府縣參事會ニ對シ訴願ヲ爲ス場合ニ於テハ府縣知事ニ之ヲ申立ツヘシ

第四百四十二條 本法ニ規定スル異議又ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ
本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四百四十三條 監督官廳ハ町村行政ノ法令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ又ハ其ノ事務ノ錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ町村行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第四百四十四條 監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第四百四十五條 内務大臣ハ町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

町村會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第四百四十六條 町村ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ郡長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第四百四十七條 町村長助役收入役副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ償償セシムヘシ

臨時代理者ノ給料額旅費額又ハ費用辨償額報酬額等ハ監督官廳之ヲ定ム
第四百四十八條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村條例ヲ設ケ及改廢スル事

二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ大ナル變更ヲ爲ス事

三 使用料手數料加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第四百四十九條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第四百四十四條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租十分ノ三其ノ他直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

三 特別基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

六 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第四百五十一條 左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 第九十三條ノ處分ヲ爲ス事

二 第百五條ニ依リ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

三 町村稅納稅義務者ノ一部ニ對シ又ハ第百八條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

四 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

五 特別會計ヲ設クル事

第百五十二條 町村ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百五十三條 町村ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ命令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第百五十四條 府縣知事郡長ハ町村長助役收入役副收入役委員區長區長代理者其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ町村長助役收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ

懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三名府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員三名ヲ以テ組織シ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕任期及懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

郡長ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ町村長助役收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給セシメサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二箇年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラレルコトヲ得ス

第百五十五條 町村吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 雜則

第百五十六條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數郡ニ涉

ルモノアルトキハ關係郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其ノ事件ヲ管理

スヘキ郡長ヲ指定スヘシ其ノ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ

第百五十七條 本法ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件

ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣

ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百五十八條 本法ハ北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ

施行セス別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十九條 本法ニ記載スル人口ハ內務大臣ノ告示スル所ニ依ル

第百六十條 本法ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示

ス

第百六十一條 本法施行ノ際現ニ町村會議員區會議員及全部事務ノ爲ニ設

ケタル町村組合會議員ノ職ニ在ル者ハ本法施行後舊規定ノ定期改選期ニ

於テ總テ其ノ職ヲ失フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ爲ニ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御質問モ無イヤウデアリマスカラ、次ノ議事

日程ニ移リマス

○議長(公爵德川家達君) 右議案ノ審查ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○子爵本莊壽巨君 此議案ハ唯今大臣カラモ御説明ガゴザイマシタ通り、郡

制廢止案ト大ニ關聯ヲ致シテ居リマス、既ニ郡制廢止案ト云フモノハ、特別

委員ガ選定ニ相成ッテ居リマスカラ、此二案ハ前同一ノ委員ニ付託セラレム

コトヲ希望イタシマス

○男爵中川興長君 贊成

○伯爵廣澤金次郎君 贊成

○男爵松平正直君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 本莊子爵ノ動議ノ通りデ、御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十九、保税倉庫法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

保税倉庫法中改正法律案

右可決ニヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治四十年三月十二日

右特別委員長

高橋 新吉

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔高橋新吉君演壇ニ登ル〕

○高橋新吉君 保税倉庫法中改正法律案ノ委員會ノ經過ノ報告ヲ致シマス、是ハ十二日ノ十時十八分ニ開會イタシマシテ、十一時三十分ニ閉會イタシマシタ、出席議員ハ八名デゴザイマス、而シテ例ニ依リマシテ、政府委員ノ説明ヲ請ヒマシタ、詳細ナル理由ヲ述べラレマシタ、就キマシテ質問ガ數同アリマシタデゴザイマス、其質問ノ要領ヲ申上ゲマスルト、第一、此保税倉庫ト云フモノニバ、是マデハ内國品ヲ此倉庫ニ入レルコトガ出來ナカッタノデゴザイマス、ソレデ輸出スル此内國品ニ付キマシテハ、甚ダ困難ヲ感ジテ居リマシタノヲ、此法律ノ改正ニ依テ之ヲ矢張り入レルコトニナッタノデゴザイマス、ソレカラマア此七條中ノ滿一箇年ト云フノヲ二箇年ニ致シマシタ、之ニ付キマシテハ餘リ二箇年ハ多ホ過ギハシナイカ、長キニ過ギハシナイカ、其間ニ又貨物ノ減損或ハ腐敗等ノ關係ヨリシテ政府モ懸念ニナルコトガ有リハセヌカト云フ議モゴザイマシタ、ソレニ付イテ政府委員ノ答辯ニハ是マデノ一年ハ餘リニ短キニ過ギル、例ヘバ横濱ヨリ大阪ニ其貨物ヲバ移ストキニ當テ半年若クハ一年過ギテモ其貨物ヲ賣ル地方ニ到著イタシテ其賣レ先、彼レ此レガマダ見當ラナイ其時間ト云フモノハ中ニ此貨主ノ方カラ見ルト三年ニモ四年ニモ致シテ貰ヒタイト云フ情ガ間ミアルコトデアル、サウ云フヤウナコトデアルカラ、丁度保税倉庫法創立コノカタ、十年間經驗實施シタ所デ二年ト云フコトガ丁度短キニ過ギズ、長キニ過ギナイ、適當ナルコトデアラウト云フ説明デゴザイマシタ、ソレカラ二十條ノ「私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付一切ノ責任ヲ有ス」之ニ就イテ質問モゴザイ

マシタガ、是ハ此私設ノ保税倉庫ニ關スルコトデゴザイマス、隨分確實ナルモノデナケレバ政府ニ或ハ損害ヲ……手數料及海關稅ノ收入ニ害ヲ來タスノ虞ガアルノデゴザイマス、ソレデ此責任ヲ有タセルコトニ致シタト云フコトデゴザイマス、ソレカラ末條ニ至リマシテ關稅法第三條中「保税倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫入申告ノ日」是ハ前ノ改正ニ據リマシテ自然不用ニナツテ來マスカラ削ル、ソレカラ非常特別稅法ノ第二十六條モ矢張り削除スルト云フ自然ノ結果ニナルノデゴザイマス、之ニ就イテモ質問ガアリマシテ、是ハ即チ他ノ法律案ノ關係デアルカラ、此保税倉庫法ノ改正案ニ向テ附則トスルノハ餘リ便法ニ過ギルデハアルマイカ、矢張り銘々ニ法律改正案ガ出タラ宜カラウト思フト云フ議論モアリマシタ、ソレニ付キマシテ政府委員ノ答辯ニハ、是マデ是等ノ便宜法ニ依テ同性質ノモノニ於テハ此通り適用シテ居ルト云フ例ヲ舉ゲテ述べラレタノデアリマス、凡ソ此質問應答ノ間ニ一時間ノ經過ヲ爲シマシタ、ソレデ質問モ終結イタシマシタ、採決ヲ致シマシタ所ガ滿場一致ノ贊成ヲ以テ決議ニナリマシタノデアリマス、ソレデ自ラ御質疑ノコトモアリマセウシ、何カゴザイマスナラバ、ドウゾ政府委員カラ答ヲ得ルヤウニ致シタイ、左様御承知ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○男爵中川與長君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵柳原義光君 贊成

〔其他「贊成」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 中川男爵ノ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ說ニ御異存

ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス、全部特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス是デ第二讀會ハ終リマシタ

○男爵中川興長君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

〔賛成〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 御異存ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十、東京市制案、衆議院提出、第一讀會

東京市制案

右本院提出案及送付候也

明治四十年三月九日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 杉田 定一

東京市制目次

第一章 總則

第一款 市

第二款 區域

第三款 住民

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第四章 市行政

第一款 市吏員ノ組織及選任

第二款 市吏員ノ職務權限

第五章 給料及給與

第六章 財務

第一款 財産營造物及收入支出

第二款 歳入出豫算及決算

第七章 監督

第八章 區

第一款 總則

第二款 區會及區行政

第三款 區ノ財務

第九章 附則

東京市制

第一章 總則

第一款 市

第一條 市ハ法人トシ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第二條 市ハ本法ニ規定スルモノノ外市住民ノ權利義務ニ關シ市條例ヲ設ケ及市ノ事務並營造物ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二款 區域

第三條 市ハ從來ノ區域ニ依ル

市ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 市ハ從來ノ區ヲ存ス

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ行政裁判所之ヲ判決ス

第三款 住民

第六條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財産並營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 市住民ニシテ左ノ要件ヲ備フル者ハ市公民タルノ權ヲ有ス

一 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スルコト

二 男子ニシテ滿二十五年以上タルコト

三 二年以來市ノ負擔ヲ分任スルコト

四 二年以來市内ニ於テ直接國稅ヲ納ムルコト

前項第三號及第四號ニ定ムル二年ノ制限ハ市會ノ議決ヲ經テ特免スルコトヲ得

家督相續ニ因リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市ノ區域變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第八條 市公民ニシテ公權停止中又ハ租稅滯納處分中ノ者並禁治產者及準禁治產者ハ其ノ權ヲ停止ス家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定スル迄及禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄亦同シ

第九條 市公民ハ本法ニ從ヒ市ノ公務ニ參與スルノ權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ陸海軍ノ現役ニ服スル者及現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十條 市會ハ各選舉區ニ於テ市公民ノ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス議員ノ定員ハ七十五人トシ各選舉區ヨリ選舉スヘキ員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ム但シ一選舉區三人ヲ下ルコトヲ得ス

第十一條 議員ノ選舉區ハ區ノ區域ニ依ル

選舉人ハ其ノ住所ニ依リテ所屬ノ選舉區ヲ定ム但シ選舉人名簿調製期日後ニ異動ヲ生シタルトキハ前住所地ヲ以テ所屬ノ選舉區トス

第十二條 選舉人ハ各選舉區ニ於テ之ヲ三級ニ分ツ

選舉人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ一級選舉人ヲ除キタル選舉人ノ納ムル總額ノ二分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス

前項ノ場合ニ於テ一級選舉人ノ數二十名ニ滿タサルトキハ直接市稅ノ納

額最多キ者二十名ヲ以テ一級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ若兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ市内ニ住所ヲ有シタル年數ノ多キ者ヲ上級ニ入ル住所ヲ有シタル年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ年齡相同シキトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ム

選舉人毎級各別ニ各選舉區ヲ通シテ議員定員ノ三分ノ一ヲ選舉ス其ノ各選舉區ニ於ケル毎級ノ議員數ハ第十條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ被選舉人ハ同級又ハ同選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

本條直接市稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ニ於ケル賦課額ニ依ル

第十三條 選舉權ヲ有スル者ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三十日ヲ經過セサル者亦同シ

一 有給ノ市吏員

二 府ノ官吏及有給ノ府吏員

三 檢察警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

市ノ爲工事ノ請負若ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者又ハ市ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス

第十四條 議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ總選舉期日ヨリ四年トス

第十五條 議員中關員ヲ生シ其ノ關員定員ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ市會若ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フヘシ

補關議員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十六條 選舉人名簿ハ選舉期日前六十日ヲ期シ其ノ日ノ現在ニ依リ市長ノ指揮ニ從ヒ區長之ヲ調製スヘシ

名簿ハ其ノ選舉期日前四十日ヲ期シ其ノ日ヨリ七日間區役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨ

リ三日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ市參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ市長又ハ區長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定シ爾後一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ適用ス但シ名簿若ハ選舉ノ無効トナリタルニ因リ又ハ補關選舉ノ爲ニ調製シタル名簿ハ本項ノ期間内ニ行ハルル總選舉並其ノ後ノ補關選舉ニ適用ノ限ニ在ラス

異議ノ決定訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ區長ハ直ニ之ヲ修正スヘシ但シ名簿確定後ナルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前三日迄ニ修正スヘシ

名簿ヲ修正シタルトキハ區長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ニ登録セラルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ名簿ニ登録セラレタル選舉人中其ノ直接市税ノ納額自己ノ納額ニ最近キ者ノ屬スル等級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テ最近キ者兩級ニ在ルトキハ下級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スルノ限ニ在ラス

異議ノ決定訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ選舉期日ヲ定メ本條ノ規定ニ依リ名簿ヲ調製スヘシ

名簿ノ様式ハ市長之ヲ定ム

第十七條 選舉ノ執行ハ改選ノ場合ニ於テハ議員ノ任期滿了ノ翌日トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ市長ノ定ムル期日ニ依ル

前項ノ期日選舉ノ場所投票ノ時限及各選舉區各級ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ市長之ヲ告示スヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

第十八條 選舉會ハ區長選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉會ニハ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ置キ臨時ニ選舉人中ヨリ區長之ヲ選任ス

選舉立會人ハ名譽職トス

第十九條 選舉會場ニハ選舉人ノ外入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者又ハ選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ選舉會場外ニ退出セシメ必要アルトキハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ其ノ投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ得投票用紙ニ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二 二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 同一ノ氏名ヲ連記シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

第二十二條 投票ノ受否並効力ニ關スル事項ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決ス

第二十三條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス但シ其ノ選舉區其ノ等級ニ於ケル議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル當該級ノ選舉人總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取り年齡相同シキトキハ選舉長抽

籤シテ其ノ當選ヲ定ム

第二十四條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顚末ヲ記載シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十五條 當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ發シタル日より五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

第十三條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日より二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日より五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ但シ第十三條第三項ノ官吏ノ當選シタル者ニ關シテハ其ノ期間ヲ二十トス

前二項ノ期間内ニ當選ノ應否ヲ申立ササル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

當選ニ應シタル者ノ氏名及其ノ住所ハ市長之ヲ告示スヘシ

第二十六條 選舉人又ハ區長ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日より當選ニ關シテハ前條告示ノ日より七日以内ニ市參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項訴願ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市長ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項訴願ノ有無ニ拘ラス第二十四條ノ報告ヲ受ケタル日より七日以内ニ市參事會ノ決定ニ付スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條市參事會ノ裁決若ハ決定ニ關シテハ市長又ハ區長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但

シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞ナキ部分ハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第二十八條 選舉若ハ當選ニシテ無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十三條ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ム

第二十九條 議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ

前項被選舉權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市會ノ決定ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十一條 議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第三十二條 市會ハ市ノ公共事務ニ關スル事件竝法律勅令ニ依リ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第三十三條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市條例及市規則ヲ設定スル事

二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事件但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歳入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律勅令ニ定ムルモノノ外使用料手数料及市税ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分竝買受讓受ニ關スル事

七 基本財産及積立金等ノ設置管理竝處分ニ關スル事

八 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

九 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

十二 區ノ名稱又ハ市役所區役所ノ位置ニ關スル事

第三十四條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事件ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十五條 市會ハ法律勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第三十六條 市會ハ市事務ノ處理議決ノ執行ニ付市長ノ報告ヲ請求シテ其ノ當否ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付官廳ニ建議ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 市會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長及副議長ハ議員ノ任期間之ヲ改選セス

第三十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ市長ノ議員又ハ臨時ニ選舉シタル議員ヲ以テ假議長トス

第三十九條 市長及其ノ委任ヲ受ケタル市吏員ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辯明スルコトヲ得

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十條 市會ハ議長之ヲ招集ス若議員定員四分ノ一以上又ハ市長ノ請求アルトキハ直ニ之ヲ招集スヘシ但シ議長副議長共ニ無キトキハ市長ニ於テ之ヲ招集ス

招集並會議ノ事件ハ急施ヲ要スル場合ノ外少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ

第四十一條 市會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ出席議員尙半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十三條 議長及議員ハ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第四十四條 市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ投票ヲ爲シ有效投票ノ

過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム此ノ場合ニ於テ同數者アル爲二名ヲ取り難キトキハ其ノ同數者ニ就キ議長抽籤シテ之ヲ定メ更ニ投票セシム

前項ノ再投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ議長抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

第二十條第一項第三項及第二十一條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

本條ノ選舉ニハ市會ノ議決ヲ以テ特別ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條 市會ノ會議ハ公開ス但シ議長若ハ議員ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ又ハ市長ヨリ傍聽禁止ノ要求アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ發議ハ討論ヲ須カス其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十六條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員又ハ傍聽人中會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ場外ニ退出セシメ必要アルトキハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十七條 議長ハ會議事件ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第四十八條 市會ニ書記其ノ他ノ有給吏員ヲ置キ議長之ヲ任免ス

前項ノ吏員ハ議長ノ指揮ヲ承ケ會議ニ關スル庶務ニ從事ス

第四十九條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ム

第五十條 議員正當ノ事由ナクシテ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ職ヲ解クコトヲ得

前項市會ノ議決ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第一項ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ處分ハ確定ニ至ル迄其ノ執行ヲ停止ス

第五十一條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ

公開シタル議場ニ於テ譴責シ又ハ會議日三日以内出席ヲ停止スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第五十二條 市參事會ハ市長副市長及市參事員十二名ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十三條 市參事員ハ名譽職トシ市會議員ニ非サル市公民中ヨリ定員ノ半數以內ヲ選舉シ其ノ他ヲ市會議員中ヨリ選舉ス

前項市參事員ノ選舉ハ總選舉後ノ市會ニ於テ直ニ之ヲ爲スヘシ

市參事員ノ任期ハ市會議員ノ任期終了日ヲ以テ滿了ス

市參事員中關員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

本條ノ選舉ニ關シテハ第十三條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第五十四條 市參事員ノ當選ハ市長之ヲ當選者ニ告知シ其ノ他第二十五條

第二項第三項及第五項乃至第七項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 市參事員若ハ市會議員ニ於テ市參事員ノ選舉又ハ當選ノ效力

ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以內ニ市參事會ノ決定ヲ求ムル

コトヲ得其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條及第二十八條ノ規定ハ市參事員ノ選舉ニ之ヲ適用ス但シ第二

十八條但書ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 市會議員ヨリ出テタル市參事員議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ其

ノ職ヲ失フ市會議員ニ非スシテ市參事員タル者議員ニ當選シ其ノ當選ヲ

辭セサルトキ亦同シ

第五十七條 市參事員ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス但シ被選舉權

ノ有無ハ市參事會之ヲ決定ス

第五十八條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ副市長之

ニ代リ市長副市長共ニ故障アルトキハ市參事員中ヨリ臨時假議長ヲ選舉

スヘシ

第二款 職務權限

第五十九條 市參事會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタル事項

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事

三 財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項

四 豫備費支出ニ關シ重要ナル事項

五 市長ノ諮問シタル事項ニ對シ意見ヲ述フル事

六 其ノ他法律命令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十條 市參事會ハ市長之ヲ招集ス若市參事員定員半數以上ノ請求アルトキハ直ニ之ヲ招集スヘシ

第六十一條 市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十二條 市參事會ニ書記ヲ置キ市吏員中ヨリ市長之ヲ命ス

第六十三條 市參事員正當ノ事由ナクシテ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルト

キハ第五十條ノ規定ヲ適用ス

第六十四條 第三十五條第三十六條第二項第三項第三十九條第四十一條乃

至第四十四條第四十六條第四十八條第二項及第四十九條ノ規定ハ市參事

會ニ之ヲ準用ス

第四章 市行政

第一款 市吏員ノ組織及選任

第六十五條 市ニ市長副市長各一名ヲ置ク

第六十六條 市長及副市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

市長ハ內務大臣ノ奏上シタル三名ノ候補者中ヨリ勅任ス

前項ノ候補者ハ內務大臣市會ヲシテ之ヲ選舉セシムヘシ

副市長ハ內務大臣市會ヲシテ候補者ヲ選舉セシメ奏上裁可ヲ請フヘシ

市長及副市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコト

ヲ得ス

第六十七條 市長及副市長ハ市公民ニ限ラス但シ其任ヲ受クルトキハ在職

中市公民タルノ權ヲ得

第六十八條 市長及副市長ハ第十三條第二項第二號乃至第五號ニ掲クル職

ト相兼スルコトヲ得又同條第四項ニ掲クル行爲ヲ爲シ若ハ同一ノ行爲

ヲ爲ス法人ノ役員タルコトヲ得ス

第六十九條 市長及副市長ハ內務大臣ノ認可ヲ得ルニ非サレハ營業又ハ他

ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

第七十條 市ニ出納司一名ヲ置ク

出納司ハ市長之ヲ選定シ市會ノ承認ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

市長又ハ副市長トノ間ニ父子兄弟ノ緣故アル者ハ之ト同時ニ出納司タル

コトヲ得ス若其ノ緣故アル者市長又ハ副市長ニ就任シタルトキハ出納司ハ其ノ職ヲ失フ

出納司ニ關シテハ第六十六條第一項第六十七條及第六十八條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 市ニ出納監理二名ヲ置ク

出納監理ハ名譽職トシ市會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉シ一會計年度間在任ス

出納監理ニ關シテハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス其ノ出納司トノ間ニ緣故アル場合亦同シ

第七十二條 市ハ市條例ヲ以テ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トシ市公民中ヨリ選任スヘシ

委員ノ組織及任期等ニ關スル事項ハ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條 市公民ニ限リ任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ公民權ヲ喪失シ

又ハ第九條但書ノ規定ニ該ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲市公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ第九條但書ノ規定ニ該ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ内務大臣ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ併セテ其ノ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第七十四條 市ニ主事技師其ノ他必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 市吏員ノ職務權限

第七十五條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付議案ヲ發シ並其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スルコト但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 使用料手数料及市稅ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法律命令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第七十六條 市長ハ市會ニ提出スル議案ニ付市參事會ト意見ヲ異ニスルト

キハ市參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

第七十七條 市長ハ出納監理ヲ除クノ外市吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命ニ係

ル市吏員ニ對シ市規則ノ定ムル所ニ依リ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

第七十八條 市長ハ市會又ハ市參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越ヘ又ハ

法律命令ニ背クト認ムルトキハ自己ノ意見又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ再議ニ付シ若ハ再選舉ヲ行ハシメ尙之ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ市會又ハ市參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルト

キ亦同シ

第七十九條 市長ハ市會成立セス又ハ會議ヲ開クコト能ハサルトキ若ハ招

集ノ暇ナシト認ムルトキハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ

付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長及副市長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項市參事會ノ議決ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ市參事會ノ議決ニ付スルコト能ハサルトキ及市會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ選舉ヲ行ハサルトキハ市長ハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

本條ノ處分ハ之ヲ次回ノ市會ニ報告スヘシ

第八十條 市長ハ市參事會成立セス又ハ會議ヲ開クコト能ハサルトキ若

ハ招集ノ暇ナシト認ムルトキハ市參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分

スルコトヲ得市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキ亦同

シ

前項市長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ處分ハ之ヲ次回ノ市參事會ニ報告スヘシ

第八十一條 市長其ノ他市吏員ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ國ノ行政事務ヲ掌ル

第八十二條 市長ハ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市

行政事務ニ付テハ市會ノ同意ヲ經國ノ行政事務ニ付テハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十三條 副市長ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキハ之ヲ代理ス

第八十四條 出納司ハ市ノ出納並第八十一條ニ關スル國ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事務ハ第八十二條第一項ノ例ニ依リ市長ニ於テ其ノ一部ヲ區出納司ニ分掌セシムルコトヲ得

出納司故障アルトキハ市長ノ選定シタル市吏員之ヲ代理ス但シ其ノ選定ハ豫メ市會ノ承認ヲ受クヘシ

第八十五條 出納監理ハ市ノ出納及財産ニ關スル計算並正否ヲ監査ス

第八十六條 委員ハ財産若ハ營造物ヲ管理シ又ハ一時ノ委託ニ依リ市行政事務ノ一部ヲ調査ス

委員正當ノ事由ナクシテ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ第五十條ノ規定ヲ適用ス

第八十七條 第七十四條ノ市吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八十八條 市ノ事務ニ關スル處務規程ハ市長之ヲ定ム

第五章 給料及給與

第八十九條 名譽職員ニハ職務ノ爲要スル實費ヲ給スルコトヲ得

出納監理及委員ニハ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第九十條 名譽職員ノ實費報酬並有給吏員ノ給料旅費等ノ支給額及其ノ支給方法ハ市規則ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條 有給吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ム

第九十二條 本章ノ給料及給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ市參事會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ決定ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六章 財務

第一款 財產營造物及收入支出

第九十三條 市ハ不動産積立金等ヲ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ取得シタル財産ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設クルコトヲ得

第九十四條 市住民ニ於テ財産又ハ營造物ヲ特ニ使用スル舊來ノ慣行ハ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ之ヲ改ムルコトヲ得

第九十五條 財産ヲ賣却貸與シ又ハ物件勞力ノ供給若ハ工事ノ請負ヲ爲サシムルトキハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ若ハ入札スヘキ價額其ノ費用ニ比シ得失相償ハスト認ムルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法律命令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ義務ニ屬スル費用ヲ負擔ス第八十一條ノ事務ヲ執行スル爲必要ナル費用及第八十九條乃至第九十一條ノ規定ニ依ル支出亦同シ但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條 市ハ營造物若ハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ及特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十九條 第九十四條及前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シテハ市規則ヲ設クルコトヲ得

第一百條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トシ特別稅ハ別ニ稅目ヲ設ケ課稅スルノ必要アルトキ之ヲ賦課徵收ス

國稅ノ附加稅タル府稅ニ對シテハ附加稅ヲ附加スルコトヲ得

第一百一條 九十日以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初二週市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百二條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ九十日以上滞在スルコトナシト雖市内

ニ於テ物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ若ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ物件營業及行爲ニ對シ又ハ其ノ收入ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第三百三條 市住民及九十日以上市内ニ滞在スル者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

收入ニ對シ市税ヲ賦課スルトキ其ノ納稅義務者ニシテ同一收入ニ付他市町村ニ納稅義務ヲ有スルトキハ其ノ收入ヲ他市町村ト平分シ其ノ一部ニ賦課スヘシ但シ物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

他市町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業若ハ其ノ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加税ヲ賦課スルトキハ其ノ方法ヲ定メ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四百四條 左ニ掲クルモノニハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ供用者以外ニ納稅義務者アルトキ其ノ納稅義務者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一 所得税法第五條ニ掲クル所得

二 國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ直接ノ公用ニ供スル物件並營造物

三 公共ノ施設ニ係ル學藝美術又ハ慈善ノ用ニ供スル物件並營造物

四 神社遙拜所寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地

五 教會所說教所ノ用ニ供スル建物ニシテ住宅ナラサルモノ及其ノ構内

前項ノ外市税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル市税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第五百五條 市税ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律中別段ノ規定アルモノノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第六百六條 納稅義務者中特別ノ事情アル者ニ對シ市長ハ納稅延期ヲ許スコ

トヲ得但シ其ノ會計年度出納閉鎖期ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

第七百七條 使用料手数料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例ニハ二圓以下ノ過料ニ處スルノ規定ヲ設クルコトヲ得財產若ハ營造物ノ使用方法ニ關スル市規則ニ付テモ亦同シ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ市長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ市參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ裁決ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八百八條 市税ノ賦課額ハ之ヲ告示スヘシ

市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後九十日以内ニ市長ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

財產若ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ決定ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ規定ハ使用料及手数料ノ徵收ニ關シ之ヲ準用ス

第九百九條 使用料手数料市税其ノ他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ市條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滞納者前項ノ督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ尙完納セサルトキハ國稅滞納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

前項ノ處分ニ不服アル者ハ市參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ裁決ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二百十條 使用料市税其ノ他官廳ノ命令ニ依ル市ノ收入ノ賦課徵收ニ關シ必要アルトキハ市長ハ市吏員ヲシテ日出ヨリ日沒迄ノ間關係者ノ家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ臨檢及檢査ハ營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内之ヲ爲スコトヲ得

第百十一條 第百九條ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第百十二條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル場合ニ限リ市會ノ議決ヲ經テ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ關シ議決ヲ經ヘシ

豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要アルトキハ本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歳入出豫算及決算

第百十三條 市長ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始前十日迄ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ其ノ市會ニ提出スヘキ期限ハ仍五十日前トス

豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ併セテ事務報告書及財産明細書ヲ提出スヘシ

第百十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百十五條 數年ヲ期シ支出ヲ要スル費用ハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百十六條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十七條 豫算ハ市會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百十八條 市ハ市會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百十九條 豫算成立シタルトキハ市長ハ其ノ謄本ヲ出納司ニ交付スヘシ
出納司ハ市長又ハ内務大臣ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
市長ノ命令ヲ受クルモ其ノ豫算ナキトキ又ハ財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第百二十條 出納閉鎖ハ會計年度經過後三箇月ヲ以テ期限トス
決算ハ出納閉鎖後二箇月以内ニ證書類ヲ添へ出納司ヨリ市長ニ提出スヘシ

シ市長ハ之ニ豫算ニ對スル増減ノ説明ヲ附シ出納監理ノ審査ヲ經テ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ市會ノ認定ニ付スヘシ

市長ハ前項出納監理ノ審査ニ關シ意見ヲ異ニスルトキハ出納監理ノ意見ヲ決算ニ添へ市會ニ提出スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十一條 市ノ支拂ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第百二十二條 現金ノ出納及保管ノ爲市金庫ヲ置キ銀行ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ外市金庫ニ關シ必要ナル事項ハ市規則ヲ以テ之ヲ定ム

第百二十三條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル事項ハ市規則ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 監督

第百二十四條 市行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第百二十五條 内務大臣ハ第七十八條ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會ノ議決若ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

前項ノ取消處分ニ不服アル市會又ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百二十六條 本法中別段ノ規定アル場合ノ外市ノ行政ニ關スル市長ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十七條 本法ニ依リ市參事會ニ訴願ヲ爲シ又ハ決定ヲ求ムル場合ニ於テハ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

第百二十八條 本法ニ規定スル異議若ハ訴願訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ各十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本法中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ申立人ニ交付スヘシ

本法中別段ノ規定アル場合ノ外異議ノ申立又ハ訴願訴訟ノ提起ニ因リテ處分ノ執行ヲ停止スルコトナシ但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者

ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十九條 內務大臣ハ市行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スル爲行政事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ竝實地ニ就キ事務ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

內務大臣ハ市行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

第二百三十條 法律命令ニ依リ負擔スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ內務大臣ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

市又ハ市長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ內務大臣又ハ其ノ委任ヲ承ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三百三十一條 內務大臣ハ勅裁ヲ經テ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

市會解散ノ場合ニ於テハ九十日以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第三百三十二條 內務大臣ハ市長副市長共ニ故障アルトキハ市參事員中ヨリ臨時市長代理者ヲ選任スヘシ若市參事員ナキトキハ府知事又ハ其ノ代理者ヲシテ市長ノ職務ヲ管掌セシム但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

前項臨時市長代理者ノ報酬及旅費額等ハ內務大臣之ヲ定ム

第三百三十三條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市條例ヲ設定スル事

二 第七十七條第九十條第二百二十二條及第二百二十三條ニ依ル市規則並營造物ニ關スル市規則ヲ設定スル事

三 基本財産ノ處分ニ關スル事

四 寄附若ハ補助ヲ爲ス事

五 區ノ名稱ニ關スル事

第三百三十四條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムル事但シ第

百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅使用料手数料ヲ新設シ若ハ變更スル事

三 直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別

段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

五 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第三百三十五條 內務大臣及大藏大臣ハ市ノ行政ニ關シ其ノ許可ヲ與フヘキ事件ニ付更正シテ許可スルコトヲ得

第三百三十六條 內務大臣ハ市長副市長出納司出納監理及委員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

市長及副市長ノ解職ハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

內務大臣ハ第一項ノ吏員ニ對シ解職ヲ行ハムトスル前停職ヲ命シ且場合ニ依リ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第三百三十七條 市吏員ノ服務紀律賠償責任ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第八章 區

第一款 總則

第三百三十八條 區ハ其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他從來法律命令ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三百三十九條 區ハ從來ノ區域ニ依ル

區ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十條 區ノ境界ニ關スル事項ハ市參事會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ決定ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四百十一條 區内ニ住所ヲ有スル者ハ本法ニ從ヒ區有財産並區ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及區ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

前項ノ外區内ニ住所ヲ有スル者ニ關シテハ市ノ住民ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十二條 區ハ第一ニ於テ市長之ヲ監督シ第二ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

區ノ監督ニ關シテハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第二百二十五條

第二百二十九條及第三百三十條第一項ノ規定ニ依ル內務大臣ノ職權ハ市長モ

亦之ヲ行フコトヲ得

第二款 區會及區行政

第四百十三條 區會ハ區有財產並區ノ營造物ニ關スル事項及法律勅令ニ依リ區會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

區會ハ區ノ出納ニ關シ計算書ヲ檢閲シ及其ノ當否ヲ監査スルコトヲ得

第四百十四條 區會議員ハ市ノ名譽職トシ其ノ定員ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十五條 區會議員一級選舉ノ投票ニ關シテハ市條例ノ規定ニ依リ連名投票ヲ用フルコトヲ得

連名投票ヲ用フル爲投票ノ效力ニ關シ必要ナル事項ハ前項ノ市條例中ニ規定スヘシ

第四百十六條 區會議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關スル異議及被選舉權ノ有無ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ適用シ其ノ他區會ニ關シテハ前三條ニ規定スルモノノ外市會ニ關スル規定ヲ準用ス

區會ト區長トノ關係ニ付テハ市會ト市長トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十七條 區會ノ解散ハ內務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ九十日以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第四百十八條 區ニ區長區書記其ノ他必要ノ有給市吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

區長ノ任免ハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

區長ハ之ヲ一名トシ區書記其ノ他ノ吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

區ニ區出納司一名ヲ置キ市長副市長出納司出納監理及區長トノ間ニ父子兄弟ノ緣故アラサル區書記中ヨリ市長之ヲ命ス

第四百十九條 區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務並區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他ノ吏員ハ府知事若ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ國及府ノ行政事務ヲ掌ル

區長ハ區書記ヲシテ前二項ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五百十條 區長ニ於テ區ノ事務ヲ處理スルニ付テハ本款ニ規定スルモノノ外市行政ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第七十八條及第七十九條第三項ニ於テ內務大臣トアルハ之ヲ市長トス

第五百十一條 區長故障アルトキハ上席區書記之ヲ代理ス但シ區出納司タ

ル區書記ハ代理スルコトヲ得ス

第五百十二條 區出納司ハ市長又ハ出納司ノ命ヲ承ケ市及區ノ出納並第四百十九條第二項ニ關スル國及府ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

區出納司故障アルトキハ市長ノ指名シタル區書記之ヲ代理ス

第五百十三條 區書記其ノ他ノ吏員ハ區長ノ指揮監督ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三款 區ノ財務

第五百十四條 區ノ事務ニ關スル處務規程ハ市長之ヲ定ム

第五百十五條 第三百十八條ノ事務ニ要スル支出及區ニ屬スル市ノ名譽職員ニ給スル實費並報酬ハ區ノ負擔トシ其ノ他ノ事務ニ要スル支出ハ市ノ負擔トス

第五百十六條 區ハ其ノ負擔ニ屬スル支出ニ充ツル爲市稅トシテ區費ノ賦課徵收ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ財產及營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第五百十七條 區ノ財務ニ關シテハ前二條ニ規定スルモノ及市條例並市規則ノ設定ヲ除クノ外市ノ財務ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第一百七條及第二百十條ニ於テ內務大臣トアルハ之ヲ市長トシ第一百十九條ニ於テ內務大臣トアルハ之ヲ監督廳トス

區ノ現金ノ出納及保管ハ市金庫ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第九章 附則

第五百十八條 本法ハ明治四十年十月一日ヨリ施行ス但シ第十條ノ市會議員定員ハ次ノ總選舉迄之ヲ六十人トス

第五百十九條 本法施行ノ際現ニ助役收入役名譽職參事會員市會議員及區會議員ノ職ニ在ル者ハ本法施行後ト雖左ノ區分ニ依リ在職ス但シ市會議長區會議長並其ノ代理者ハ本法施行ト共ニ其ノ職ヲ失フ

一 助役ハ之ヲ副市長トス但シ助役二名以上アルトキハ市會ニ於テ其ノ中ヨリ選定シタル者ヲ副市長トシ其ノ他ハ職ヲ失フ

二 收入役ハ之ヲ出納司トス

三名譽職參事會員ハ之ヲ市參事員トシ本法施行後明治二十一年法律第一號市制ニ依ル半數改選期迄在任ス但シ市會議員ノ任期其ノ前ニ終了スルトキハ市參事員モ共ニ其ノ職ヲ失フ

四 市會議員及區會議員ハ本法施行後明治二十一年法律第一號市制ニ依ル半數改選期迄在任ス

前項第三號ニ依リ就職シタル市參事員ニシテ第五十三條第一項ノ制限ニ適セサルトキハ補闕選舉ノ際順次其ノ制限ニ依ラシムヘシ

第百六十條 本法施行ノ際現ニ市長ノ職ニ在ル者及前條ニ依リ就職シタル副市長並出納司ハ本法施行後明治二十一年法律第一號市制ニ依ル殘任期間在任ス但シ殘任期間四年ヲ超ユルトキハ之ヲ四年トス

第百六十一條 本法ニ定メタル直接稅間接稅ノ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百六十二條 本法ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御質問モゴザイマセヌヤウデスカラ次ノ議事日程ニ移リマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十一、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員モ議長ガ選定イタシマシテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 此特別委員ノ數ハ別ニ御論ハゴザイマセヌカ、別ニ御論モ無イヤウデスカラ通常ノ九人ト認メマス

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 次ニ御諮リヲ致シマスガ、議事日程第二十二、第二十四、第二十六ハ皆衆議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會デアリマスカ、一括シテ問題ニ供シテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

衆議院議員選舉法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十年三月九日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス
第八條第三號中「十圓以上」ヲ「五圓以上」ニ改ム

衆議院議員選舉法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十年三月九日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 杉田 定一

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

神奈川縣橫濱市ノ次ニ

橫須賀市 一人

長崎縣長崎市ノ次ニ

佐世保市 一人

新潟縣新潟市ノ次ニ

長岡市 一人

三重縣四日市市ノ次ニ

宇治山田市 一人

愛知縣名古屋市ノ次ニ

豐橋市 一人

廣島縣廣島市ノ次ニ

吳市 一人

ヲ加フ

北海道廳中札幌、小樽、岩内、増毛、宗谷、上川、空知、室蘭、浦河各支

廳管内「一人」ヲ「四人」ニ改ム

末項ヲ削ル

附 則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

衆議院議員選舉法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十年三月九日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長 公爵德川家達殿

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

沖繩縣

二人

○伯爵廣澤金次郎君 内務省ノ政府委員ハ御出席ニナツテ居リマスカ

○議長(公爵德川家達君) 内務省ノ政府委員ハ出テ居ラレマセヌ、……別ニ御論モ無イヤウデアリマスカラ次ノ議事日程ニ移リマス

○議長(公爵德川家達君) 右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選定ハ議長ガ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、ソレカラ諸君ニ御諮リ致シマスガ、是ハ無論三案トモ同一委員デ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十八、貴族院規則第二十八條中改正ノ動議、子爵曾我祐準君外四名發議、會議
貴族院規則第二十八條中改正ノ動議
右貴族院規則第六十五條ニ依リ提出候也

明治四十年三月十一日

發議者

子爵曾我 祐準

子爵岡部 長職

男爵松平 正直

男爵船越 衛

藤田 四郎

贊成者

公爵二條 基弘

外九十一名

貴族院議長公爵德川家達殿

貴族院規則第二十八條中第二號及第五號ヲ左ノ如ク改ム

二 豫算委員 五十四人

五 決算委員 三十六人

「子爵曾我祐準君演壇ニ登ル」

○子爵曾我祐準君 本案ニ就イテ少シク説明ヲ致シマス、此貴族院規則修正案ハ至ッテ簡單ナモノデゴザイマシテ、即チ字ニ書イテアル通りノモノデゴザイマス、別ニ説明ノ必要ハ無イヤウデゴザイマスガ、聊カ一言申シマス、元來此規則ト云フモノハ第一期議會ノ當時ニ出來タモノデアリマシテ、其後二十七年ニ第二十八條ノ決算委員ヲ置クト云フコトガ修正サレテ、即チ決算委員ヲ置クトニナリマシタ、ソレカラ又二十四年ニ第四十七條ノ改正ガアリマシタ、是ハ委員長ノ選舉ヲ議長若クハ部長ニ任セルト云フコトニナツタデアリマス、即チ今日議長ニ委員ノ選舉ヲ委託スルノハ此修正以後ノコトデアリマス、ソレカラ又三十二年ニ第九十六條ノ改正ガアリマシタ、是ハ討論終局、質問終局ニ係ル修正デアリマス、右ノ都合デ三度修正ニナツテ居リマスルケレドモガ、皆小サイ右様ナコトデアリマス、ソレデ此規則ノ出來マシタ時代ニハ貴族院ノ議員ト云フモノハ僅ニ二百五十二人シカ無カッタデアリマスガ、今日デハ三百六十人以上ニナツテ居リマス、ソレカラ豫算ノ金高ヲ見マシテモ、當時ハ一億ニモナラナカッタモノガ六億萬ニモナルト云フ次第デアリマス、時勢ノ進歩ニ連レテ議員モ多クナリ議スベキ豫算決算、又議スベキ問題ガ膨脹ヲシテ大キクナッタデアリマスカラ、ソレデ豫算決算ヲ委託スル委員ノ人員ヲ増シタラ宜カラウ、即チ各部ニ就イテ一名ツツ増シタラ宜カラウト云フ、斯ノ如キ極簡單ナ案デアリマス、是ハ此場デ直グニ決議ヲ願ッテモ宜イヤウデアリマスルケレドモガ、初ニモ申シマシタ通り此案ノ出來タノハ非常ニ古ウゴザイマスデ、此他ニモ中ニハチヨイ／＼改正ヲシタイト云フ御考ノ諸君モアルサウデアリマスカラ、願ハクハ是ハ一應、審査委員ニ付セラレテ、尙ホ改正スベキ所ガアルナラバ、之ト同時ニ改正ニナツタラ宜カラウト思ヒマス、ソレデ此案ヲ提出スルト同時ニ委員ニ付託セラレムコトヲ希望イタシマス、其委員ノ數ハ例ニ依リマシテ九名、サウシテ其選舉ハ議長ニ御願ヒ致シタイト、斯ウ云フ議ヲ提出イタシマス、ドウカ左様ニ御承知ヲ願ヒマス

○伯爵正親町實正君 贊成ヲ致シマス

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ貴族院規則改正ノ動議ノ案ヲ特別委員

ニ付託スル、其員數ハ九人、其選定ハ議長ニ一任ニナルト云フコトデアリマス、其動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス、是デ本日ノ議事ハ終リマシタ、先刻御委託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス、書記官長ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔太田書記官長朗讀〕

日本勸業銀行法中改正法律案外二件特別委員

子爵新莊 直 陳君 子爵久留島 通 簡君

男爵玉松 眞 幸君 男爵毛利 五 郎君

森 山 茂君 阿由葉吟次郎君

森林法改正法律案特別委員

公爵二條 基 弘君 子爵平松 時 厚君

男爵尾崎 三 良君 宮 本 小 一君

男爵安場 末 喜君 原 保 太 郎君

藤田 四 郎君 武井 守 正君

岡田 良 平君 辰巳 檜太郎君

種牡牛檢査法案特別委員

伯爵徳川 達 孝君 男爵原田 一 道君

子爵青山 幸 宜君 田 中 芳 男君

安廣伴一郎君 伊 澤 平 藏君

東京市制案特別委員

伯爵清棲 家 教君 子爵堤 功 長君

三 浦 安君 男爵千 田 貞 曉君

一 木 喜徳郎君 菊 池 長 四郎君

衆議院議員選舉法中改正法律案外二件特別委員

伯爵萬里小路通房君 子爵毛利 元 忠君

男爵沖 守 固君 男爵清水 資 治君

磯邊 包 義君 下 條 正 雄君

貴族院規則第二十八條中改正ノ動議特別委員

侯爵徳川 頼 倫君 子爵曾 我 祐 準君

子爵水 野 直君 男爵石黒 忠 惠君 男爵川口 武 定君

南 郷 茂 光君 穂 積 八 束君 木 村 誓 太 郎君

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハ決定次第御報告イタシマス、本日はデ散會イタシマス

午前十一時二十八分散會